

第53回
市政世論調査
(概要版)



令和3年

府中市

< 目 次 >

府中市市政世論調査について	1
回答者の概要	2
【住み心地】について	3
■ 府中市は住みよいところだと感じるか	3
【住まいの環境】について	4
■ 身近な住まいの環境についての率直な感想	4
【生活の満足度】について	5
■ 現在の生活にどの程度満足しているか	5
【定住意向】について	6
■ 今後も府中市に住み続けたいと思うか	6
【市政に関する関心度】について	7
■ 市政にどの程度関心を持っているか	7
【市への要望】について	8
■ 府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと	8
【市民協働の推進】について	10
■ 「協働」という言葉を知っているか	10
■ 「協働」について興味があるか	10
■ 協働によってより良いまちにするために市が力を入れるべきこと	11
【社会貢献活動】について	12
■ 過去 1 年以内に取り組んだ「社会貢献活動」	12
■ 社会貢献活動を協働で取り組んだ活動相手	12
■ 現在の幸福度	13
【男女共同参画社会】について	14
■ 「第 6 次府中市男女共同参画計画」を知っているか	14
■ 家庭における男女のあり方について	14
■ 女性問題相談窓口を知っているか	15
【府中市の公共施設マネジメント】について	15
■ 「公共施設マネジメント」の取組を知っているか	15
■ 公共施設を維持管理・運営していくための効果的な取組方法	16
■ 公共施設マネジメント推進への市民の理解を深めるための取組	17
【環境問題に対する取組】について	18
■ 環境に関する取組	18

【生物多様性地域戦略】について	19
■「生物多様性」の意味を知っているか	19
■生物多様性保全活動に参加したいか	19
■生物多様性の保全に向けて、行政に期待すること	20
【ごみの減量や食品ロス】について	20
■ごみの減量や3 Rに取り組んでいるか	20
■「食品ロス削減推進法」を知っているか	21
■食品ロス削減のために行っている取組	21
■市が実施している食品ロス削減の事業について	22
【障害者に対する差別・偏見】について	22
■「障害者差別解消法」の内容について	22
■障害を理由とした差別や偏見について	23
■障害を理由とした差別や偏見を解消するために市が力を入れるべきこと	23
【手話の普及及び障害者の意思疎通の促進】について	24
■「府中市手話の普及及び障害者の意思疎通の促進に関する条例」	
を知っているか	24
■「手話」に触れたり勉強したことはあるか	24
■「手話」が「言語」の一つとして規定されていることを知っているか	25
【健康づくり】について	25
■かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局はあるか	25
■お薬手帳を持っているか	26
■健康づくりに関する情報の有効な発信方法	26
【自転車利用に関すること】について	27
■自転車の利用頻度	27
【暮らしとしごとの相談コーナー】について	28
■「暮らしとしごとの相談コーナー」の相談支援で知っているもの	28
【国司館と家康御殿史跡広場】について	29
■国司館と家康御殿史跡広場を知っているか	29
■国司館と家康御殿史跡広場に来園したことがあるか	29
■ガイダンス施設に期待する役割	30
【生涯学習への取組】について	30
■教養講座や自主グループ活動に参加したことがあるか	30
■生涯学習センターの利用	31
■「学び返し」という言葉を知っているか	31

■ 「学び返し」を実践したことがあるか	32
■ 「学び返し」をどのような場面で実践したいか	32
【消費者被害・トラブルの経験】について	33
■ 「消費生活センター」を知っているか	33
■ 消費者被害・トラブルの経験	33
■ 消費者被害・トラブルにあった場合の相談・申出について	34
■ 消費生活センターに力を入れてほしい取組	34

府中市市政世論調査について

府中市で、毎年実施してまいりました世論調査も、今回で第53回となります。

この世論調査は、市政に対するご意見・ご要望をお聞きし、諸施策に対する市民の皆様の考えを把握することによって、今後の市政運営上の参考にさせていただくことを目的としております。

今回は市政全般のほか、「市民協働の推進」「社会貢献活動」「男女共同参画社会」「府中市の公共施設マネジメント」「環境問題に対する取組」「生物多様性地域戦略」「ごみの減量や食品ロス」「障害者に対する差別・偏見」「手話の普及及び障害者の意思疎通の促進」「健康づくり」「自転車利用に関すること」「暮らしとしごとの相談コーナー」「国司館と家康御殿史跡広場」「生涯学習への取組」「消費者被害・トラブルの経験」についてお聞きしました。

本書は、調査結果の一部をまとめた概要版です。

ご協力いただきました市民の皆様に、心からお礼を申し上げます。

調査の方法

調査の地域	: 府中市全域
調査対象者	: 府中市在住の満18歳以上の男女
調査数	: 1,500人
抽出方法	: 地点を用いた二段抽出法 (住民基本台帳の登録人口を11の地区に分け、その構成比により無作為に抽出する方法)
調査方法	: 郵送法(郵送配布、郵送回収)
調査期間	: 令和3年5月14日(金)～令和3年7月2日(金)
回収数(率)	: 845(56.3%)

調査の内容

1. 住み心地	9. 男女共同参画社会	16. 健康づくり
2. 住まいの環境	10. 府中市の公共施設 マネジメント	17. 自転車利用に関すること
3. 生活の満足度	11. 環境問題に対する取組	18. 暮らしとしごとの相談コーナー
4. 定住意向	12. 生物多様性地域戦略	19. 国司館と家康御殿史跡広場
5. 市政に関する関心度	13. ごみの減量や食品ロス	20. 生涯学習への取組
6. 市への要望	14. 障害者に対する差別・偏見	21. 消費者被害・トラブルの経験
〈第53回特設設問〉	15. 手話の普及及び障害者の 意思疎通の促進	
7. 市民協働の推進		
8. 社会貢献活動		

注意事項 本書をご覧になる場合、次の点に注意してください。

- (1) 百分率(%)の計算は、小数点第2位を四捨五入して表示しています。このため、単数回答(1つだけ選ぶ設問)に表示された百分率を足し合わせても100%にならない場合があります。また、複数回答(2つ以上選んでよい設問)の設問の場合、百分率を足し合わせると100%を超える場合があります。
- (2) 図、表に表示された「n」は、各設問に対する回答者数を表します。

回答者の概要

回答数 845 件の属性別回答者数と構成比を表します。

〔性別〕

	回答者数(人)	構成比(%)
男性	349	41.3
女性	436	51.6
回答しない (無回答)	10 50	1.2 5.9

〔職業〕

	回答者数(人)	構成比(%)
事務職	101	12.0
専門・技術職	182	21.5
労務・サービス職	68	8.0
役員・管理職	49	5.8
商・工・サービス業	38	4.5
自由業	34	4.0
農林漁業	5	0.6
内職・パート・フリーター	92	10.9
主婦(家事専業)	94	11.1
学生	22	2.6
無職	131	15.5
(無回答)	29	3.4

〔未婚・既婚〕

	回答者数(人)	構成比(%)
未婚	195	23.1
既婚(離別・死別含む)	601	71.1
(無回答)	49	5.8

〔年齢〕

	回答者数(人)	構成比(%)
18～29歳	89	10.5
30～39歳	120	14.2
40～49歳	167	19.8
50～59歳	182	21.5
60～69歳	115	13.6
70歳以上	157	18.6
(無回答)	15	1.8

〔ライフステージ〕

	回答者数(人)	構成比(%)
独身期	107	12.7
家族形成期	71	8.4
家族成長前期	105	12.4
家族成長後期・家族成熟期	120	14.2
高齢期	76	9.0
高齢者世帯	126	14.9
その他	175	20.7
(無回答)	65	7.7

〔地区〕

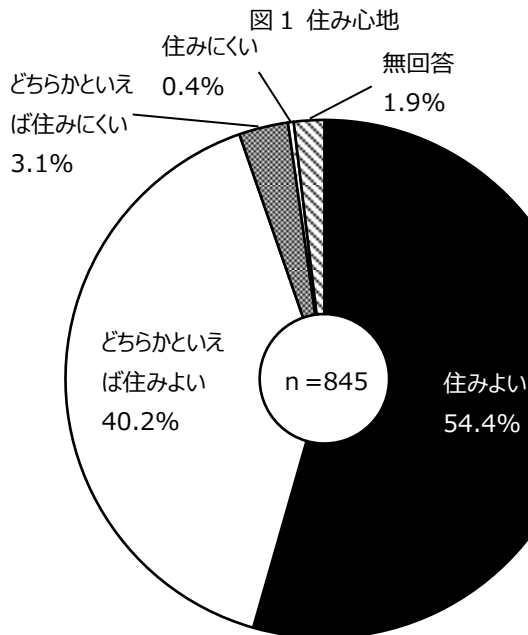
	総人口(人)	対象者数(人)	調査数(人)	回答率(%)	回答者数(人)	構成比(%)
紅葉丘文化センター	23,195	19,073	131	61.1	80	9.5
白糸台文化センター	29,136	24,800	170	50.0	85	10.1
押立文化センター	9,666	8,262	56	62.5	35	4.1
是政文化センター	25,099	21,016	145	52.4	76	9.0
住吉文化センター	26,869	22,513	154	55.8	86	10.2
片町文化センター	30,735	26,313	179	64.8	116	13.7
中央文化センター	42,207	35,722	244	54.5	133	15.7
新町文化センター	25,898	22,150	149	61.7	92	10.9
武蔵台文化センター	14,398	12,405	86	48.8	42	5.0
西府文化センター	18,982	15,666	106	54.7	58	6.9
四谷文化センター	14,323	11,620	80	52.5	42	5.0
総計	260,508	219,540	1,500	56.3	845	100.0

上記対象者は、令和3年4月1日現在の満18歳以上の人口である。

【住み心地】について

■ 府中市は住みよいところだと感じるか (n=845)

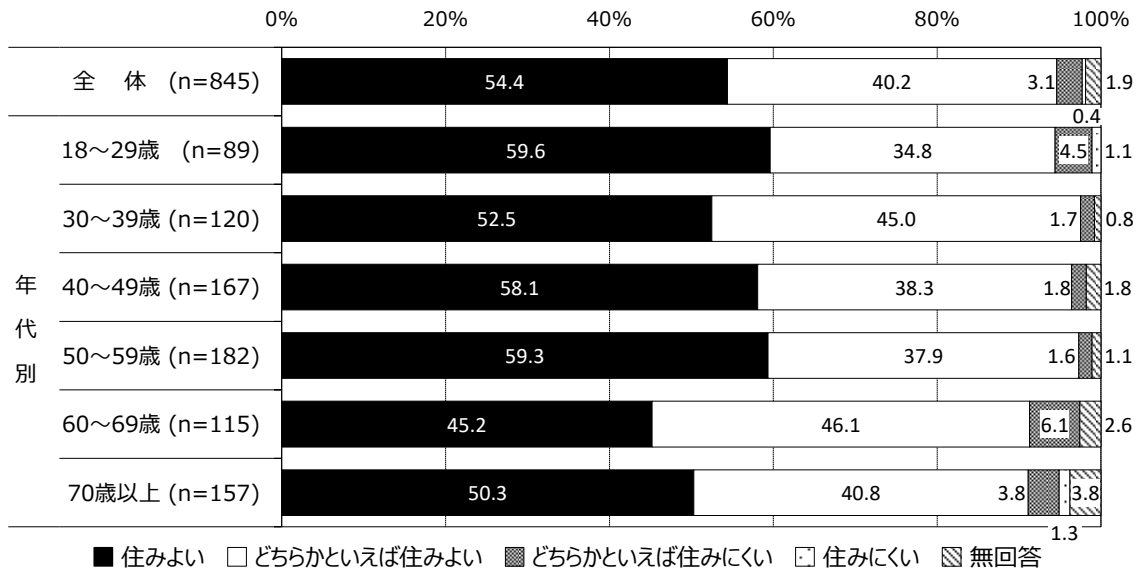
「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせると、9割半ばが『府中市は住みよい』と感じている。



「住みよい」(54.4%)と「どちらかといえば住みよい」(40.2%)を合わせた『住みよいと感じる』割合は、9割(94.6%)にのぼる。また、「住みにくい」(0.4%)と「どちらかといえば住みにくい」(3.1%)を合わせた『住みにくいと感じる』割合は3.5%である。

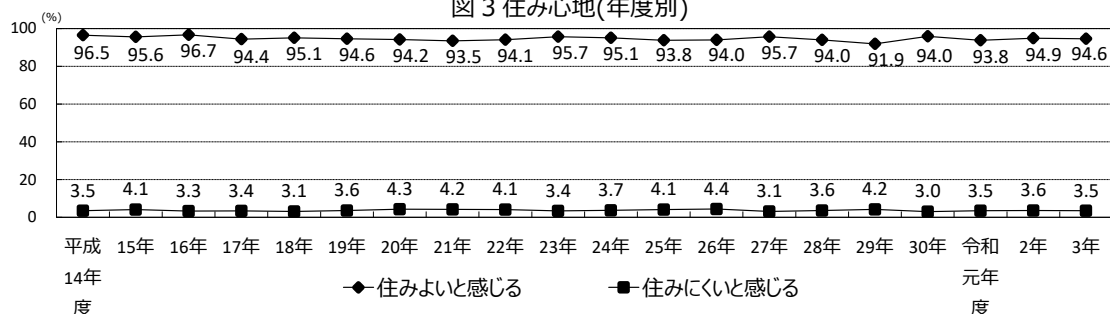
「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせた『住みよいと感じる』割合は、年代別では、「30～39歳」(97.5%)が最も高く、「70歳以上」(91.1%)が最も低い。

図2 住み心地(年代別)



■ 住みよい □ どちらかといえば住みよい ▨ どちらかといえば住みにくい ▩ 住みにくい ▪ 無回答

図3 住み心地(年度別)



【住まいの環境】について

■ 身近な住まいの環境についての感想 (n=845)

「非常によい」と「まあよい」を合わせた『よいと感じる住まいの環境』は、「緑の豊かさ」、「日常の買い物の便」、「風通し、日当たり」の順になっている。「あまりよくない」と「非常に悪い」を合わせた『よくないと感じる住まいの環境』は、「蚊やハエの発生の防止」、「騒音や振動の防止」、「交通安全対策」の順になっている。

図 4 身近な住まいの環境についての感想

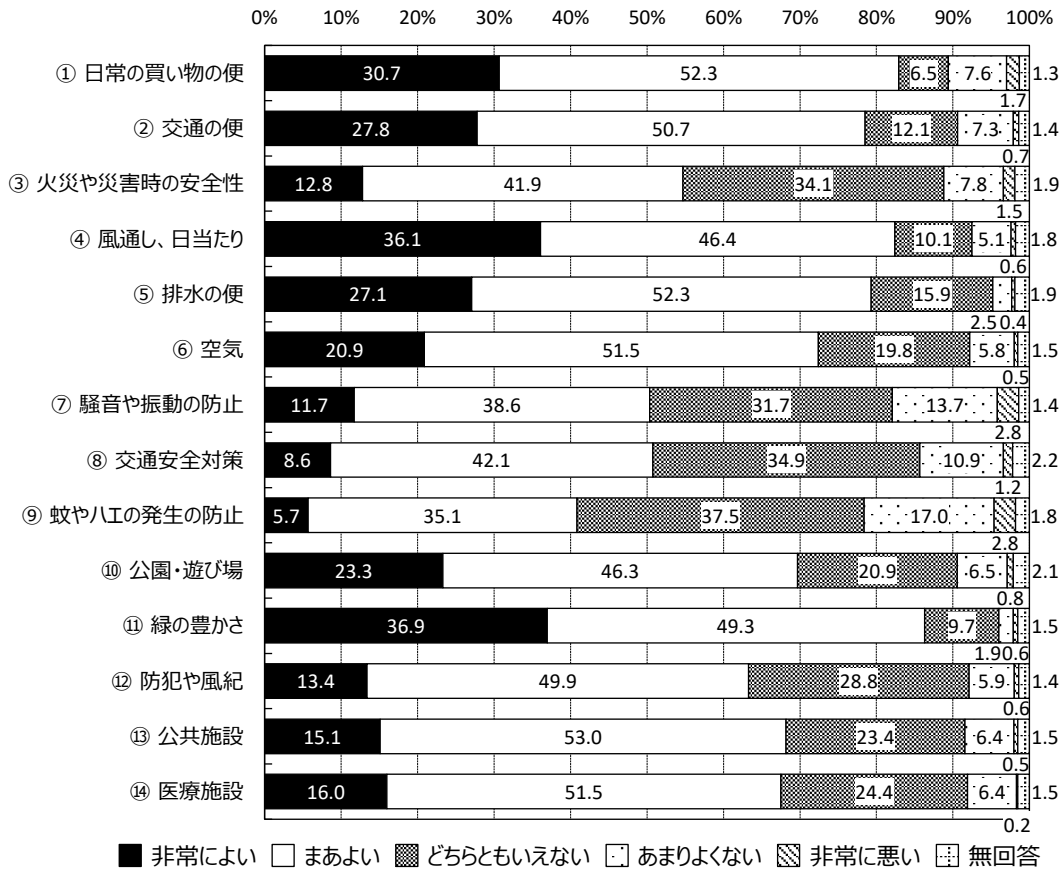


表 1 『よい』と感じる割合の順

順位	住まいの環境	非常によい または まあよい (%)
1位	⑪ 緑の豊かさ	86.2
2位	① 日常の買い物の便	83.0
3位	④ 風通し、日当たり	82.5
4位	⑤ 排水の便	79.4
5位	② 交通の便	78.5
6位	⑥ 空気	72.4
7位	⑩ 公園・遊び場	69.6
8位	⑬ 公共施設	68.1
9位	⑭ 医療施設	67.5
10位	⑫ 防犯や風紀	63.3
11位	③ 火災や災害時の安全性	54.7
12位	⑧ 交通安全対策	50.7
13位	⑦ 騒音や振動の防止	50.3
14位	⑨ 蚊やハエの発生の防止	40.8

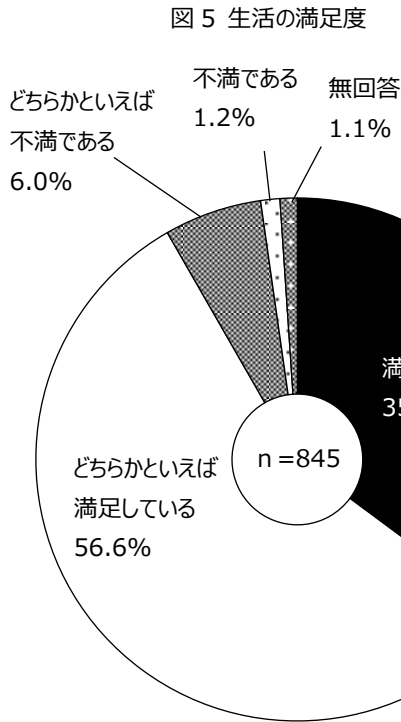
表 2 『よくない』と感じる割合の順

順位	住まいの環境	あまりよくない または 非常に悪い (%)
1位	⑨ 蚊やハエの発生の防止	19.8
2位	⑦ 騒音や振動の防止	16.5
3位	⑧ 交通安全対策	12.1
4位	① 日常の買い物の便	9.3
4位	③ 火災や災害時の安全性	9.3
6位	② 交通の便	8.0
7位	⑩ 公園・遊び場	7.3
8位	⑬ 公共施設	6.9
9位	⑭ 医療施設	6.6
10位	⑫ 防犯や風紀	6.5
11位	⑥ 空気	6.3
12位	④ 風通し、日当たり	5.7
13位	⑤ 排水の便	2.9
14位	⑪ 緑の豊かさ	2.5

【生活の満足度】について

■ 現在の生活にどの程度満足しているか (n=845)

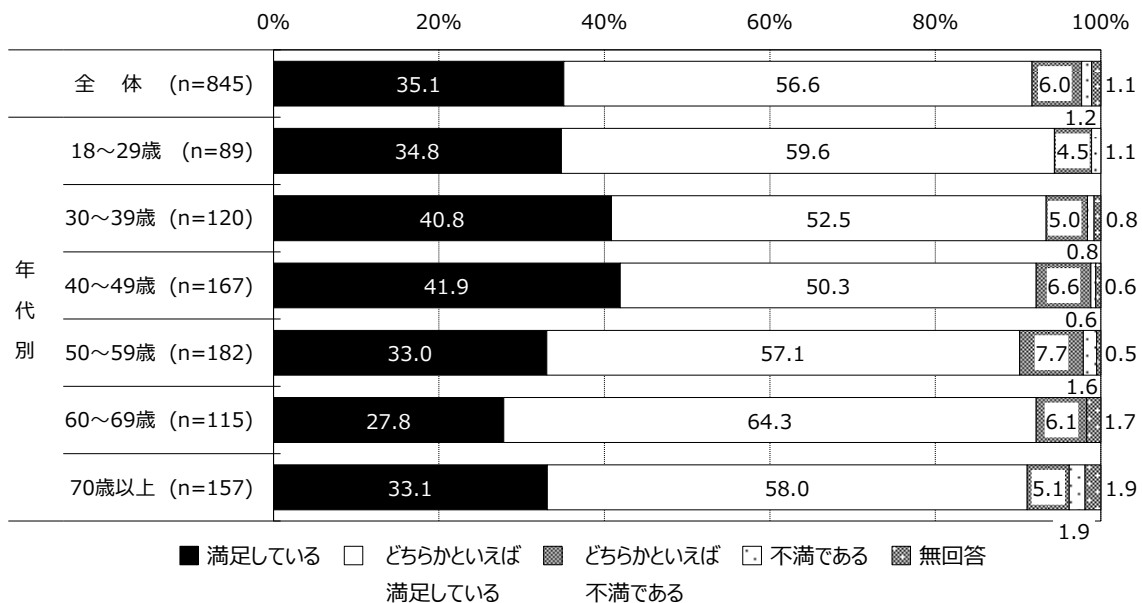
「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、9割が『生活に満足している』と感じている。



「満足している」(35.1%)と「どちらかといえば満足している」(56.6%)を合わせた『満足と感じている』割合は、9割を超える(91.7%)。また、「不満である」(1.2%)と「どちらかといえば不満である」(6.0%)を合わせた『不満と感じている』割合は、1割に満たない(7.2%)。

年代別では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『生活に満足していると感じる』割合は、「18～29歳以上」(94.4%)が最も高く、「50～59歳」(90.1%)が最も低い。

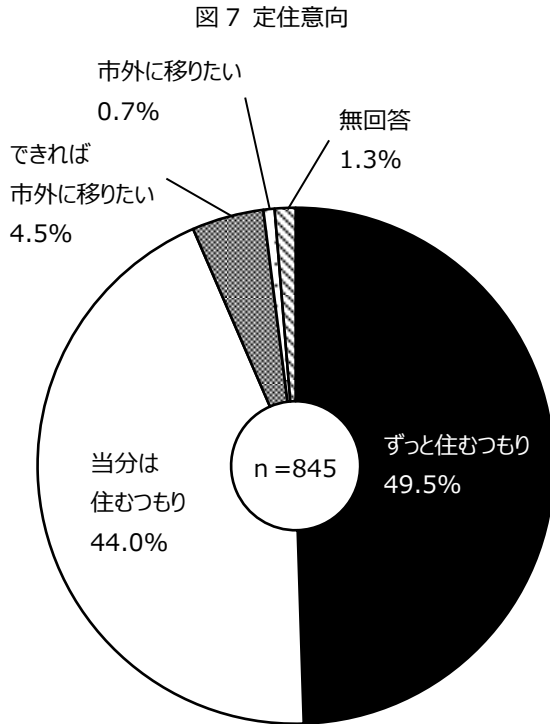
図 6 生活の満足度 (年代別)



【定住意向】について

■ 今後も府中市に住み続けたいと思うか (n=845)

「ずっと住むつもり」と「当分は住むつもり」を合わせると、9割以上が『今後も府中市に住み続けたい』と感じている。

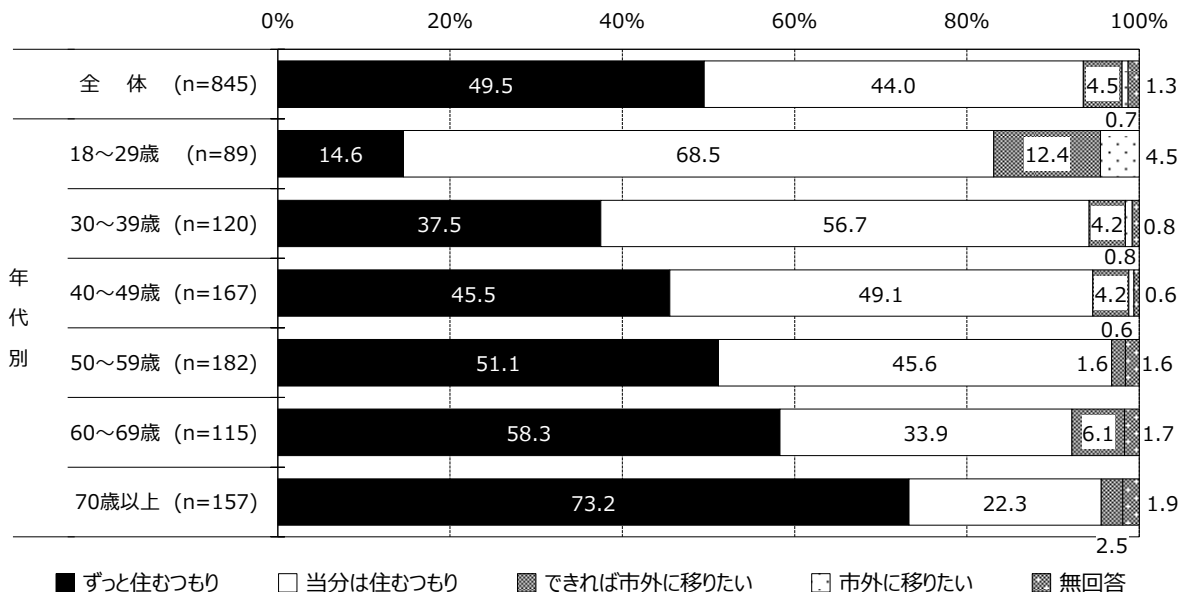


「ずっと住むつもり」(49.5%)と「当分は住むつもり」(44.0%)を合わせた『住み続けたい』と感じている割合は、9割を占める(93.5%)。

また、「できれば市外に移りたい」(4.5%)と「市外に移りたい」(0.7%)を合わせた『市外に移りたい』と感じている割合は、5.2%である。

年代別では、「ずっと住むつもり」と「当分は住むつもり」を合わせた『住み続けたい』と感じている割合は、「70歳以上」(95.5%)が最も高く、「18～29歳」(83.1%)が最も低い。

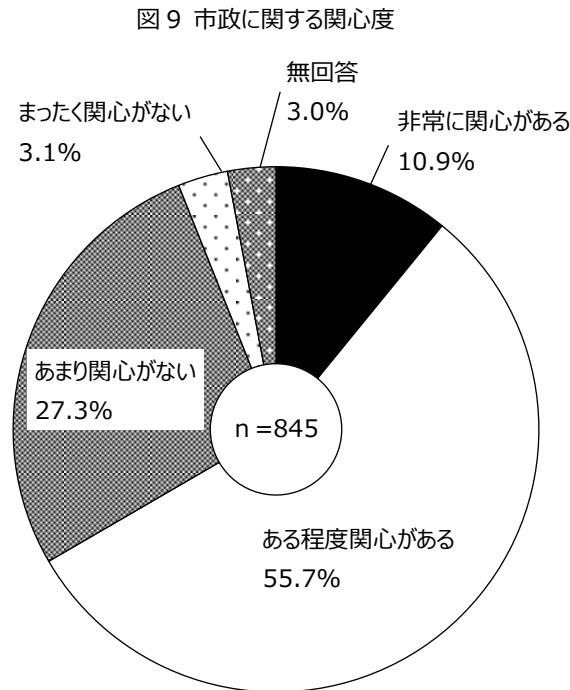
図8 定住意向 (年代別)



【市政に関する関心度】について

■ 市政にどの程度関心を持っているか (n=845)

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると、6割半ばが市政に関心を持っている。

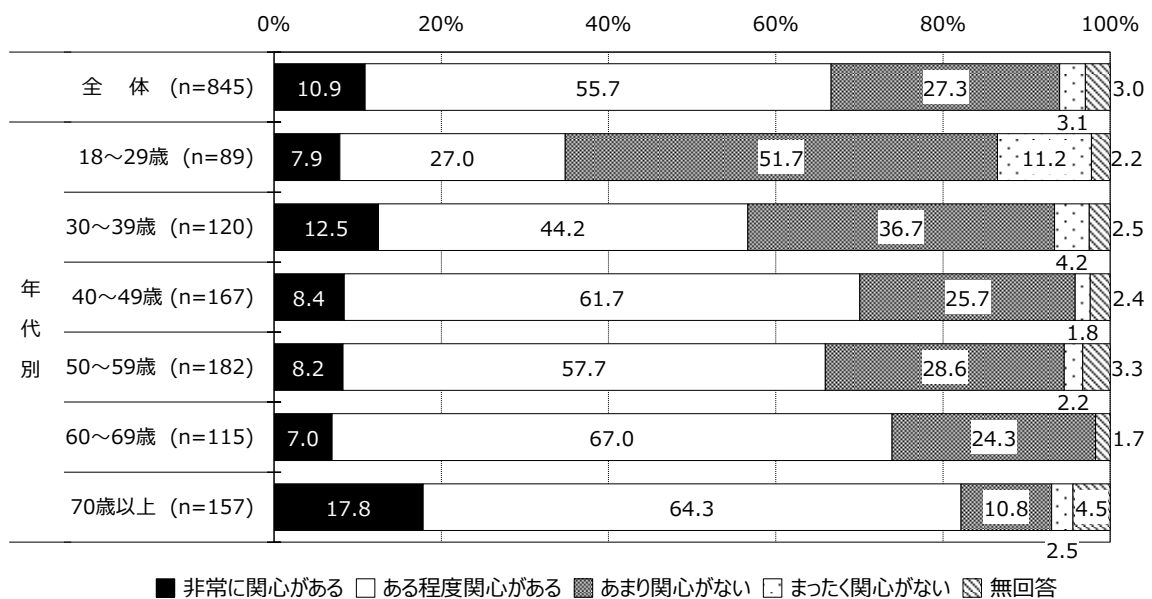


「非常に関心がある」(10.9%)と「ある程度関心がある」(55.7%)を合わせた『市政に関心がある』割合は 66.6%で、6割半ばが市政に関心を持っている。

一方、『市政に関心がない』割合は、「まったく関心がない」(3.1%)と「あまり関心がない」(27.3%)を合わせた 30.4%である。

年代別では、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『市政に関心がある』割合は、「70歳以上」(82.1%)が最も高く、「18～29歳」(34.9%)が最も低い。

図10 市政に関する関心度(年代別)

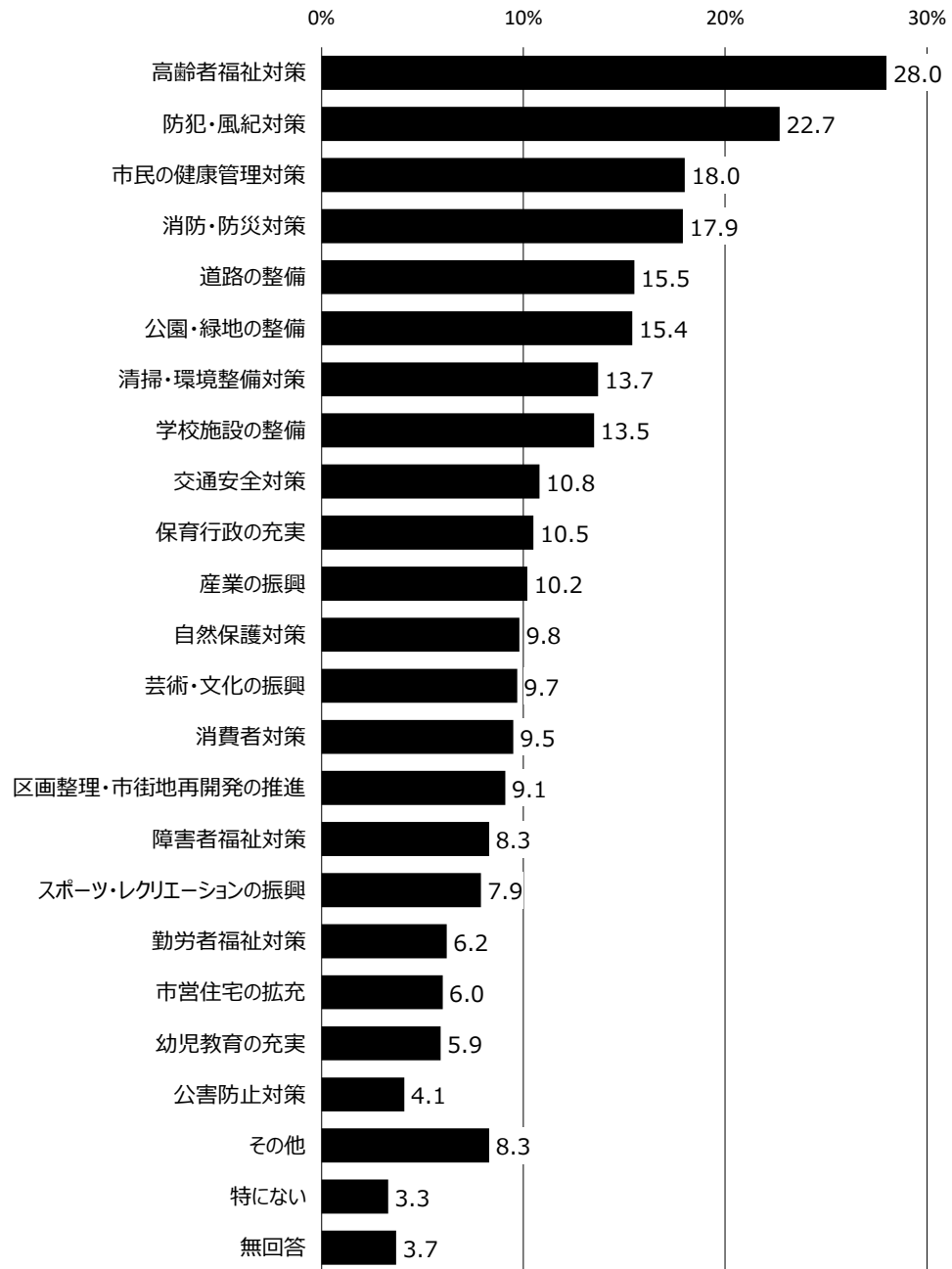


【市への要望】について

■ 府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと (n=845 : 複数回答)

「高齢者福祉対策」(28.0%)、「防犯・風紀対策」(22.7%)、「市民の健康管理対策」(18.0%)、「消防・防災対策」(17.9%)の順で高い。

図 11 市への要望

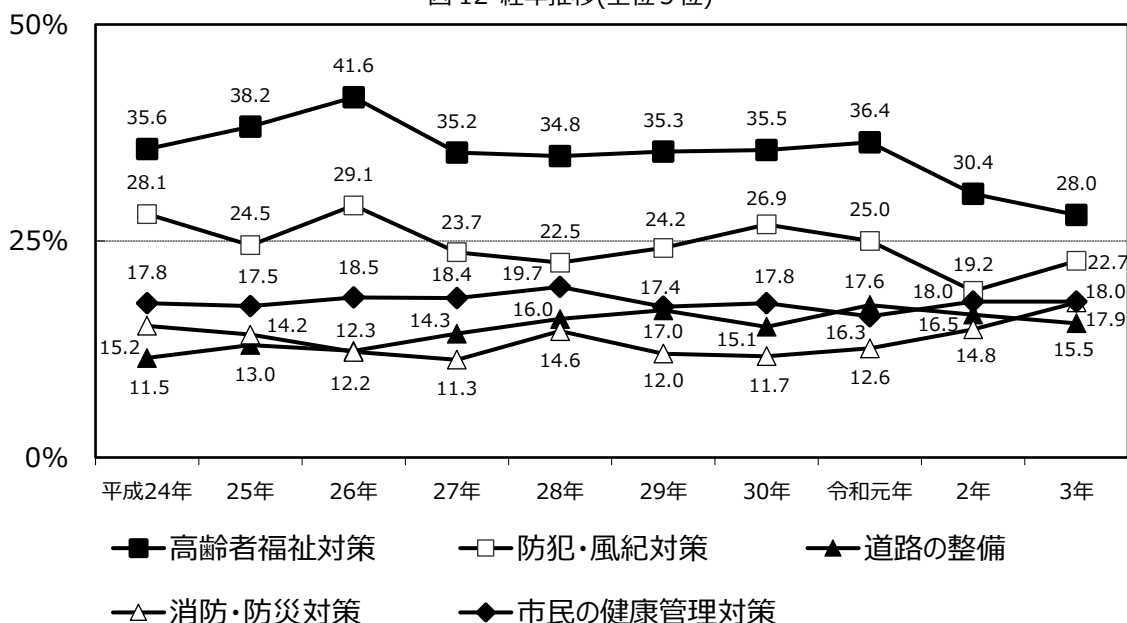


上位5項目について平成24年度からの順位変動を見ると、今年度1位の「高齢者福祉対策」は常に1位となっている。2位の「防犯・風紀対策」は毎年2位になっており、3位の「市民の健康管理対策」は毎年上位5位に入っている。4位の「消防・防災対策」と5位の「道路の整備」は、昨年度の順位と入れ替わっている。

表3 経年推移(上位5位)

	n	1位	2位	3位	4位	5位
令和3年	845	高齢者福祉対策 28.0%	防犯・風紀対策 22.7%	市民の健康管理対策 18.0%	消防・防災対策 17.9%	道路の整備 15.5%
2年	900	高齢者福祉対策 30.4%	防犯・風紀対策 19.2%	市民の健康管理対策 18.0%	道路の整備 15.9%	消防・防災対策 15.8%
元年	992	高齢者福祉対策 36.4%	防犯・風紀対策 25.0%	道路の整備 17.6%	交通安全対策 17.1%	市民の健康管理対策 16.3%
平成30年	1021	高齢者福祉対策 35.5%	防犯・風紀対策 26.9%	市民の健康管理対策 17.8%	学校施設の整備 15.3%	道路の整備/ 清掃・環境整備対策 15.1%
29年	1103	高齢者福祉対策 35.3%	防犯・風紀対策 24.2%	市民の健康管理対策 17.4%	道路の整備 17.0%	保育行政の充実 15.4%
28年	996	高齢者福祉対策 34.8%	防犯・風紀対策 22.5%	市民の健康管理対策 19.7%	保育行政の充実 18.6%	道路の整備 16.0%
27年	824	高齢者福祉対策 35.2%	防犯・風紀対策 23.7%	市民の健康管理対策 18.4%	清掃・環境整備対策 15.7%	道路の整備/ 保育行政の充実 14.3%
26年	844	高齢者福祉対策 41.6%	防犯・風紀対策 29.1%	市民の健康管理対策 18.5%	清掃・環境整備対策 16.1%	保育行政の充実 14.3%
25年	836	高齢者福祉対策 38.2%	防犯・風紀対策 24.5%	清掃・環境整備対策 18.7%	市民の健康管理対策 17.5%	消防・防災対策 14.2%
24年	846	高齢者福祉対策 35.6%	防犯・風紀対策 28.1%	市民の健康管理対策 17.8%	交通安全対策 17.3%	消防・防災対策 15.2%

図12 経年推移(上位5位)

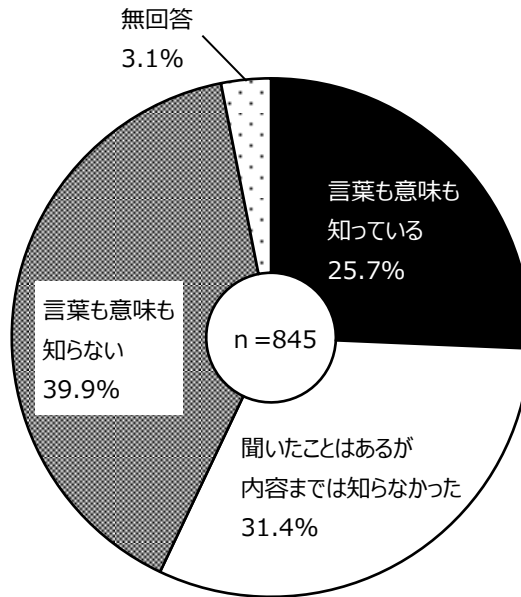


【市民協働の推進】について

■「協働」という言葉を知っているか (n=845)

「言葉も意味も知らない」(39.9%)が最も高く、続いて、「聞いたことはあるが内容までは知らなかった」(31.4%)、「言葉も意味も知っている」(25.7%)となっている。

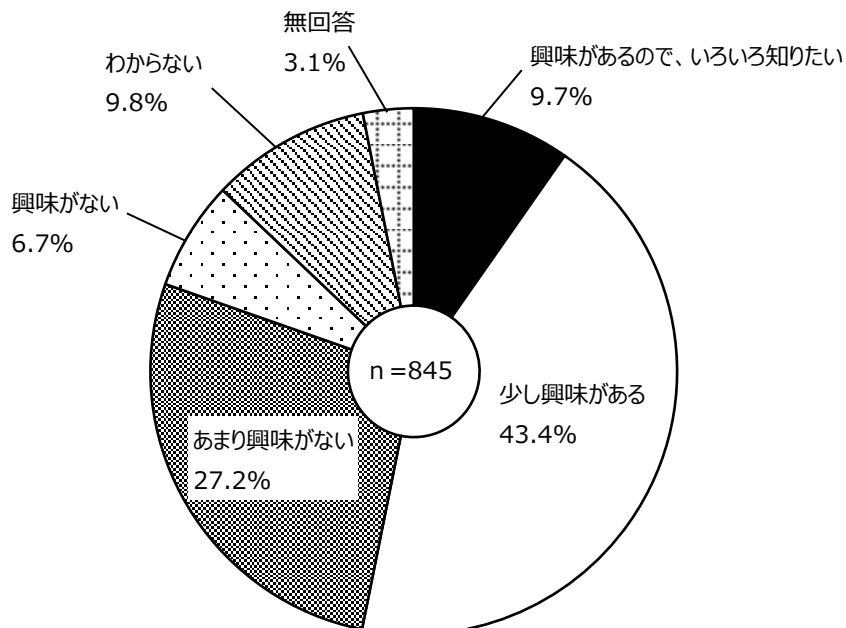
図 13 「協働」という言葉を知っているか



■「協働」について興味があるか (n=845)

「少し興味がある」(43.4%)が最も高く、続いて、「あまり興味がない」(27.2%)、「わからない」(9.8%)、「興味があるので、いろいろ知りたい」(9.7%)となっている。

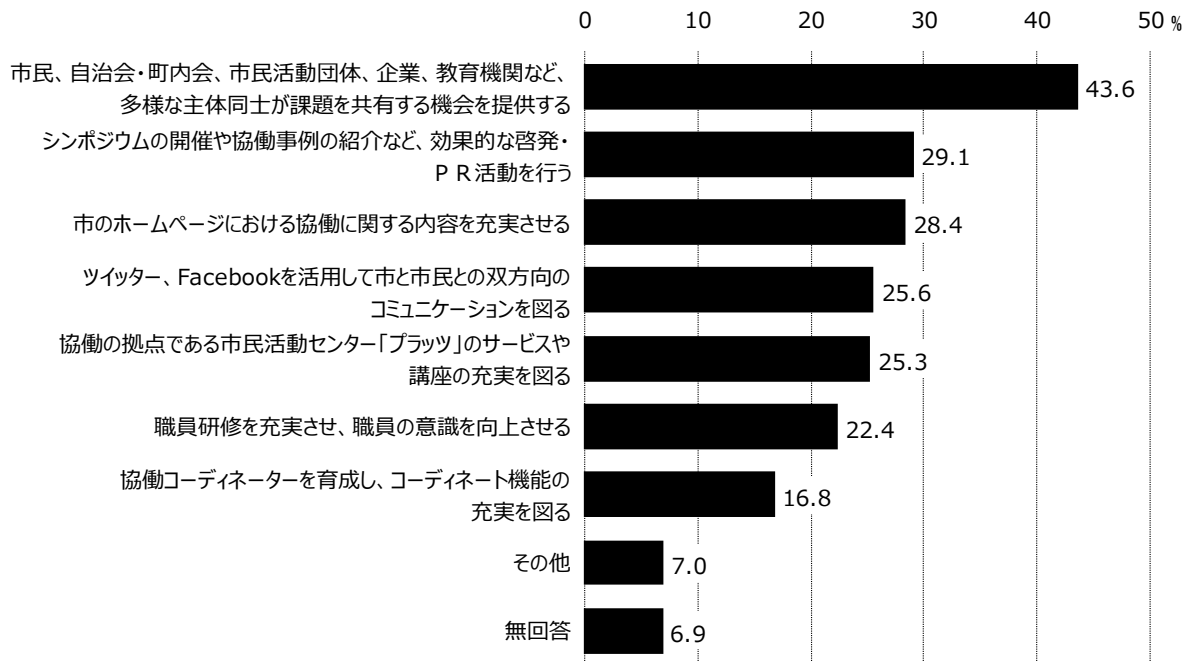
図 14 「協働」について興味があるか



■ 協働によってより良いまちにするために市が力を入れるべきこと（n=845：複数回答）

「市民、自治会・町内会、市民活動団体、企業、教育機関など、多様な主体同士が課題を共有する機会を提供する」（43.6%）が最も高く4割半ばを占める。続いて、「シンポジウムの開催や協働事例の紹介など、効果的な啓発・PR活動を行う」（29.1%）、「市のホームページにおける協働に関する内容を充実させる」（28.4%）となっている。

図 15 協働によってより良いまちにするために市が力を入れるべきこと



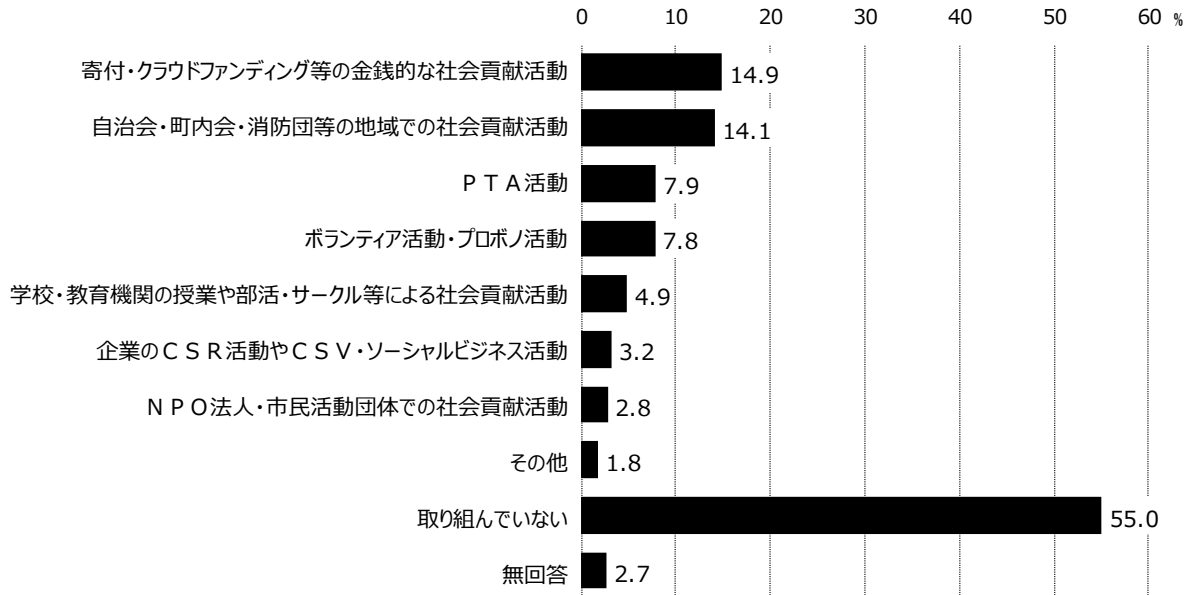
【社会貢献活動】について

■ 過去 1 年以内に取り組んだ「社会貢献活動」(n=845：複数回答)

過去 1 年以内に取り組んだ「社会貢献活動」として、「寄付・クラウドファンディング等の金銭的な社会貢献活動」(14.9%) が最も高い。続いて、「自治会・町内会・消防団等の地域での社会貢献活動」(14.1%)、「P T A 活動」(7.9%) となっている。

過去 1 年以内にならかの「社会貢献活動」に取り組んだ人の割合は 42.3%である。

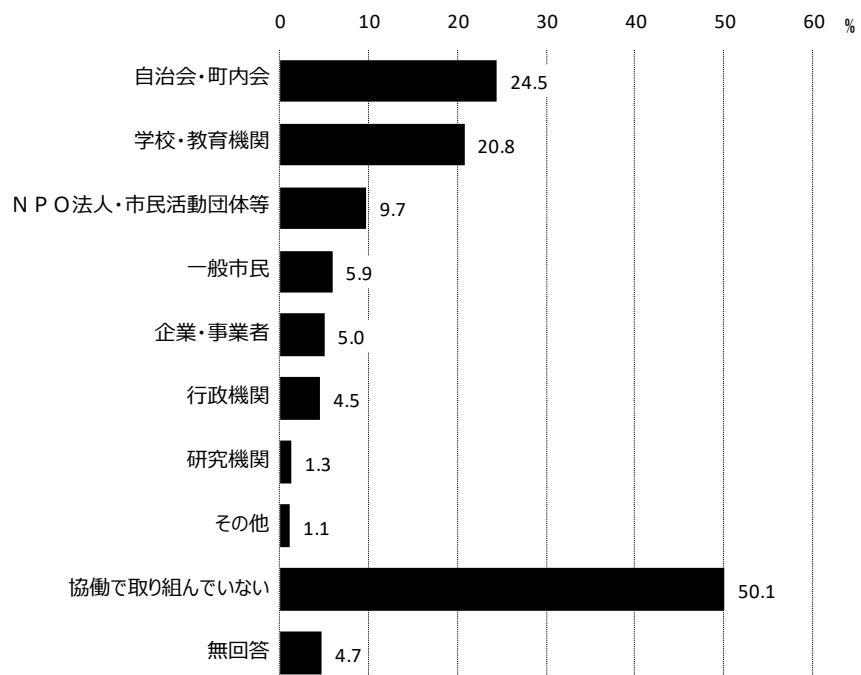
図 16 過去 1 年以内に取り組んだ「社会貢献活動」



■ 社会貢献活動を協働で取り組んだ活動相手 (n=845：複数回答)

これまでの社会貢献活動の中で、協働で取り組んだ活動相手としては、「自治会・町内会」(24.5%)、「学校・教育機関」(20.8%)、「N P O 法人・市民活動団体等」(9.7%) の順になっている。

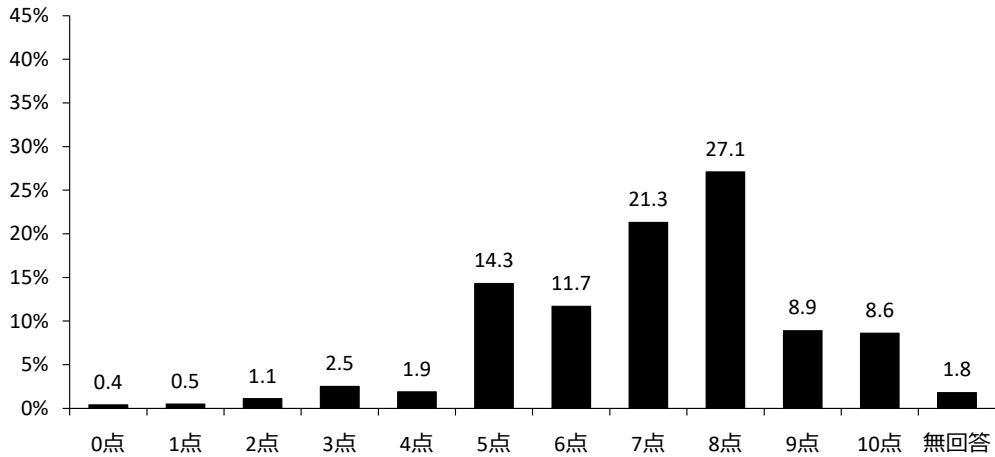
図 17 社会貢献活動を協働で取り組んだ活動相手



■現在の幸福度（n=845）

現在の幸福度について、「8点」（27.1%）が最も高く、次いで「7点」（21.3%）、「5点」（14.3%）、「6点」（11.7%）、「9点」（8.9%）となっている。また、『6点以上』の割合は77.6%、『4点以下』の割合は6.4%となっており、全体の平均点は7.04点である。

図 18 現在の幸福度



過去1年以内の「社会貢献活動」の取組有無別で見ると、「社会貢献活動に取り組んだ」（7.5点）よりも「社会貢献活動に取り組んでいない」（6.8点）の方が低い。

表 4 現在の幸福度（社会貢献活動の取組有無別）

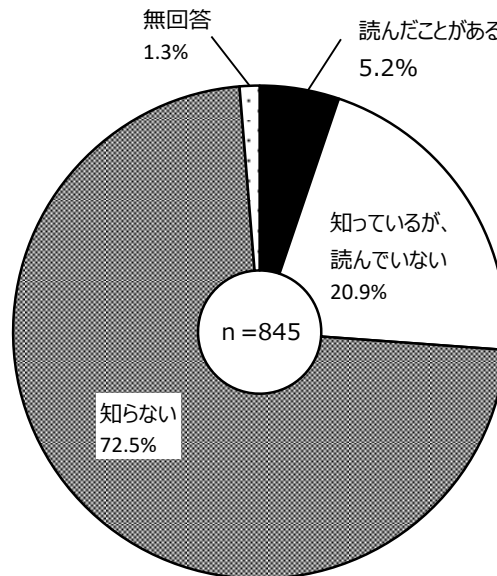
	(%)												
過去1年以内の「社会貢献活動」の取組有無	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均点
「社会貢献活動」に取り組んだ	0.3	0.3	1.3	0.8	2.5	8.7	8.7	19.2	29.5	15.4	13.5	0.0	7.5
「社会貢献活動」に取り組んでいない	0.4	0.7	0.9	3.5	2.0	19.0	11.8	23.5	25.1	6.1	7.0	0.2	6.8

【男女共同参画社会】について

■「第6次府中市男女共同参画計画」を知っているか (n=845)

「第6次府中市男女共同参画計画」について、「知らない」(72.5%)が最も高く、7割を占めている。続いて、「知っているが、読んでいない」(20.9%)、「読んだことがある」(5.2%)となっている。

図 19 「第6次府中市男女共同参画計画」を知っているか

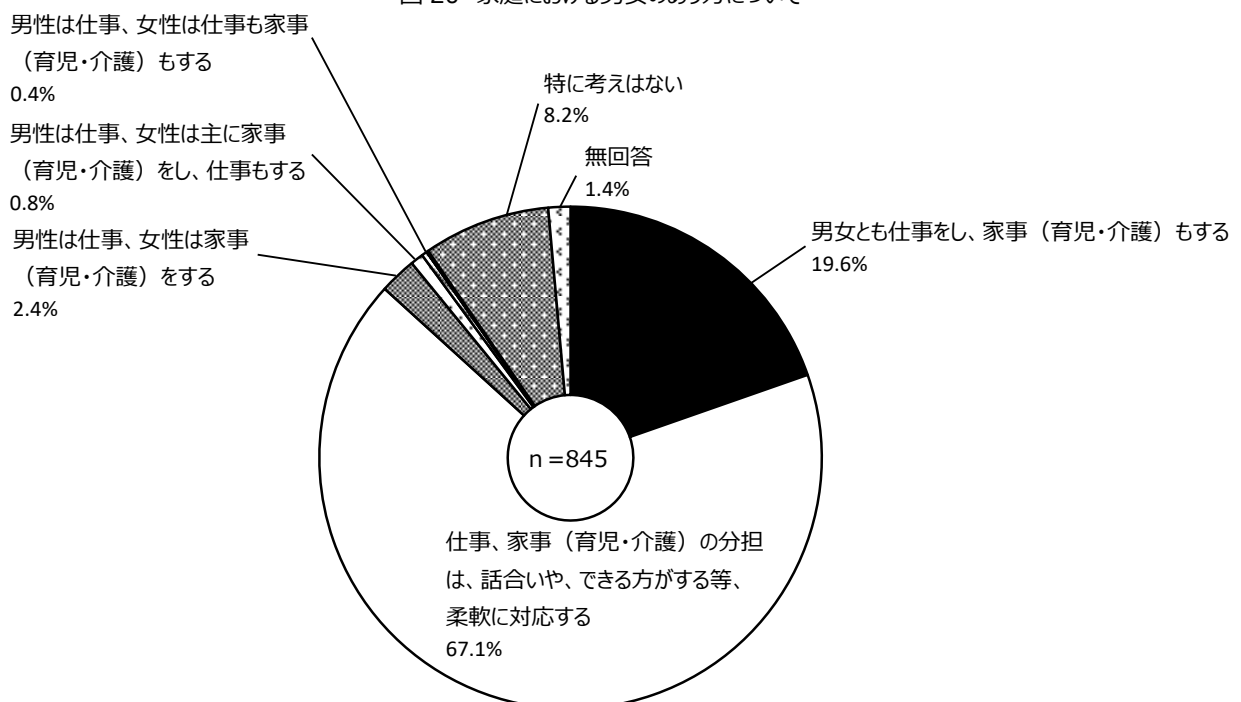


■家庭における男女のあり方について (n=845)

家庭における男女のあり方については、「仕事、家事(育児・介護)の分担は、話し合い、できる方がする等、柔軟に対応する」(67.1%)、「男女とも仕事をし、家事(育児・介護)もする」(19.6%)、「特に考えはない」(8.2%)の順に高い。

「女性は仕事、男性は家事(育児・介護)をする」、「女性は仕事、男性は主に家事(育児・介護)をし、仕事もする」は、回答者がいない。

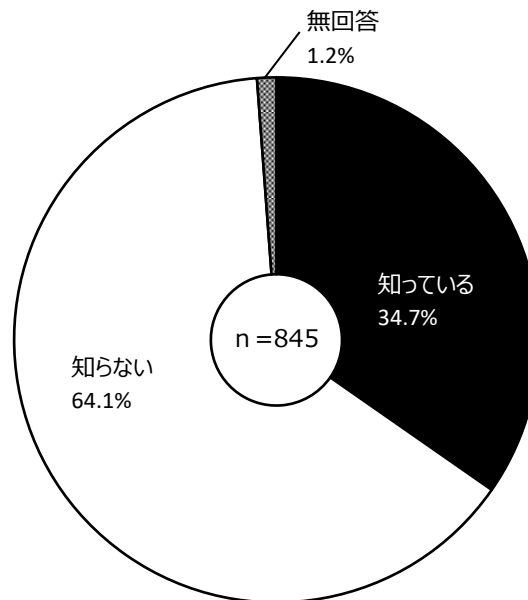
図 20 家庭における男女のあり方について



■ 女性問題相談窓口を知っているか (n=845)

迷ったときや困ったときの相談窓口である女性問題相談について、「知っている」(34.7%)が3割半ばとなっており、「知らない」(64.1%)が6割半ばとなっている。

図 21 女性問題相談窓口を知っているか

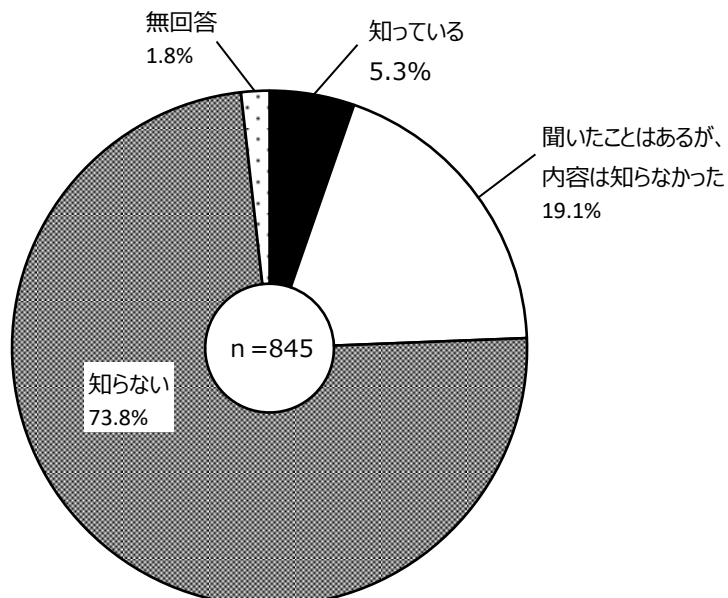


【府中市の公共施設マネジメント】について

■ 「公共施設マネジメント」の取組を知っているか (n=845)

「公共施設マネジメント」の取組について、「知らない」(73.8%)が最も高く、7割半ばを占める。続いて、「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」(19.1%)、「知っている」(5.3%)となっている。

図 22 「公共施設マネジメント」の取組を知っているか



■ 公共施設を維持管理・運営していくための効果的な取組方法（n=845：複数回答）

公共施設を維持管理・運営していくための効果的な取組方法について、「異なるサービスを提供する複数の施設を併せることで、施設の総数を減らす」は、「⑨ 行政系施設」（30.2%）が最も高い。「市の施設を民間に運営してもらう」は、「⑩ その他」（36.2%）、「④ スポーツ施設」（34.2%）、「⑦ 福祉・保健施設」（32.1%）の順となっている。「現状のままで、変化を伴う取組を行わない」は、「⑤ 学校教育施設」（55.1%）が5割半ばを占める。

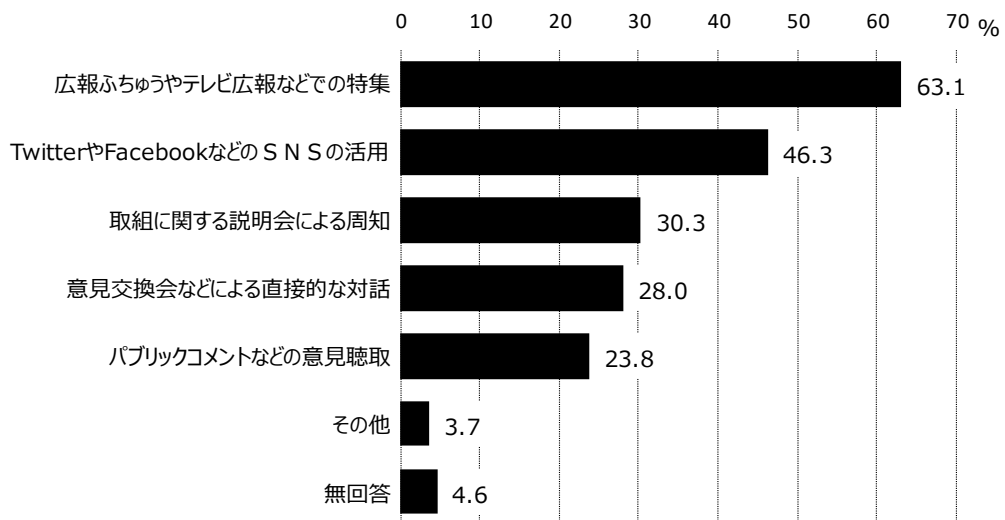
表 5 公共施設を維持管理・運営していくための効果的な取組方法

項目	選択肢							無回答
	異なるサービスを提供する複数の施設を併せることで、施設の総数を減らす	同じサービスを提供する複数の施設を併せることで、施設の総数を減らす	市の施設を民間に運営してもらう	民間の施設を所有しないかわりに、民間の施設を利用する際に助成を行う	市の施設を民間に運営してもらう	増設料の値上げ等により収入を増やす	現状のままで、変化を伴う	
① 市民文化系施設	23.0	19.4	28.8	9.5	17.3	20.6	9.9	
② 社会教育系施設	14.7	18.5	25.6	8.8	13.0	32.5	10.1	
③ 文化センター	13.4	26.9	19.1	7.3	10.1	32.0	10.3	
④ スポーツ施設	9.9	12.1	34.2	16.6	24.3	20.0	9.7	
⑤ 学校教育施設	9.0	16.6	11.8	4.1	3.3	55.1	11.1	
⑥ 子育て支援系施設	10.8	11.6	27.3	16.1	5.2	38.1	10.2	
⑦ 福祉・保健施設	9.6	13.0	32.1	20.0	6.9	30.2	10.3	
⑧ 市営住宅	5.1	16.3	25.3	19.3	8.9	30.1	10.9	
⑨ 行政系施設	30.2	20.4	17.4	7.7	9.6	23.7	10.5	
⑩ その他	5.7	6.3	36.2	13.3	12.9	35.4	8.9	

■ 公共施設マネジメント推進への市民の理解を深めるための取組（n=845：複数回答）

市民への理解を深めていくために力を入れるべき取組として、「広報ふちゅうやテレビ広報などでの特集」（63.1%）が最も高く6割半ばを占める。続いて、「TwitterやFacebookなどのSNSの活用」（46.3%）、「取組に関する説明会による周知」（30.3%）、「意見交換会などによる直接的な対話」（28.0%）となっている。

図 23 公共施設マネジメント推進への市民の理解を深めるための取組



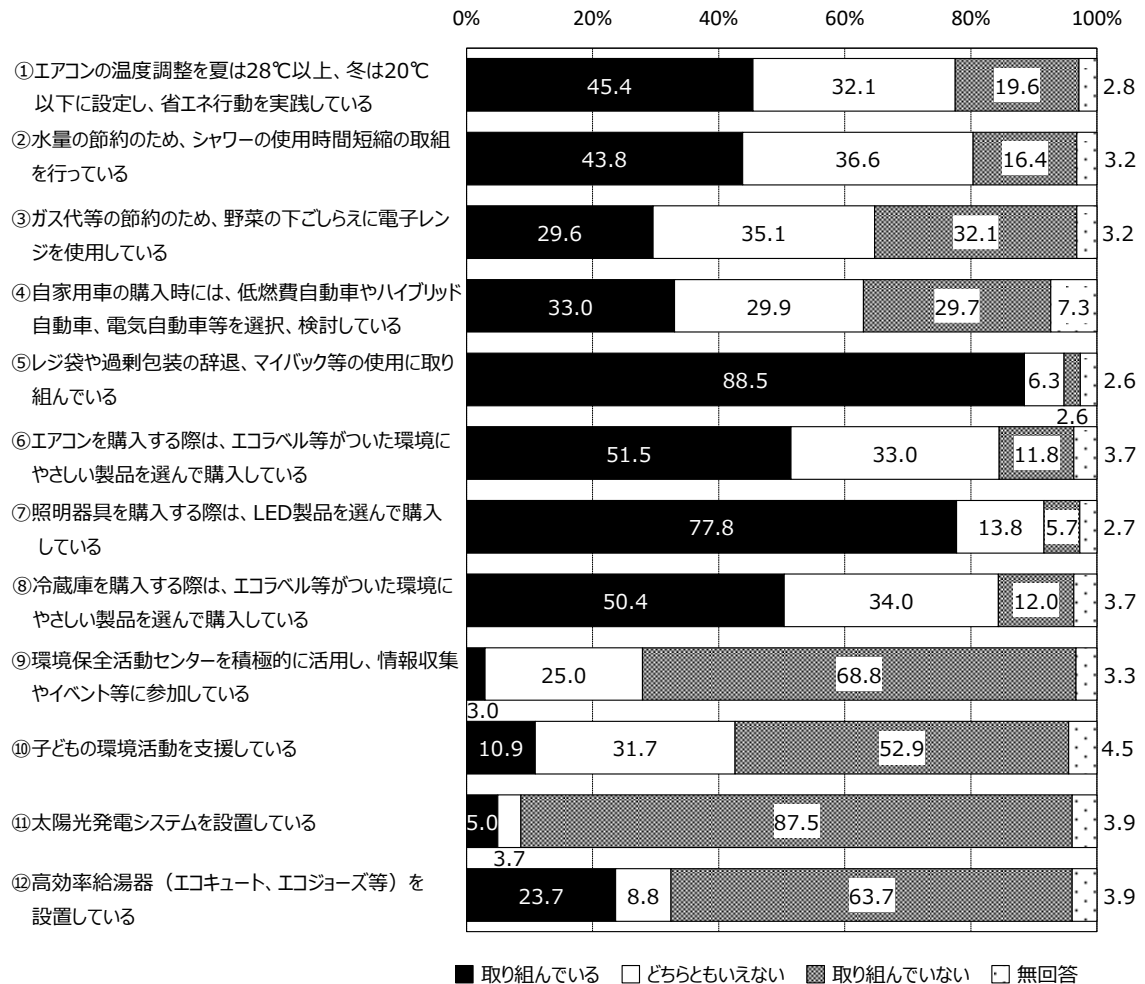
【環境問題に対する取組】について

■ 環境に関する取組（n=845）

環境に関する取組について、「取り組んでいる」は、「レジ袋や過剰包装の辞退、マイバッグ等の使用に取り組んでいる」（88.5%）、「照明器具を購入する際は、LED 製品を選んで購入している」（77.8%）、「エアコンを購入する際は、エコラベル等がついた環境にやさしい製品を選んで購入している」（51.5%）の順で高い。

「取り組んでいない」は、「太陽光発電システムを設置している」（87.5%）、「環境保全活動センターを積極的に活用し、情報収集やイベント等に参加している」（68.8%）、「高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズ等）を設置している」（63.7%）の順で高い。

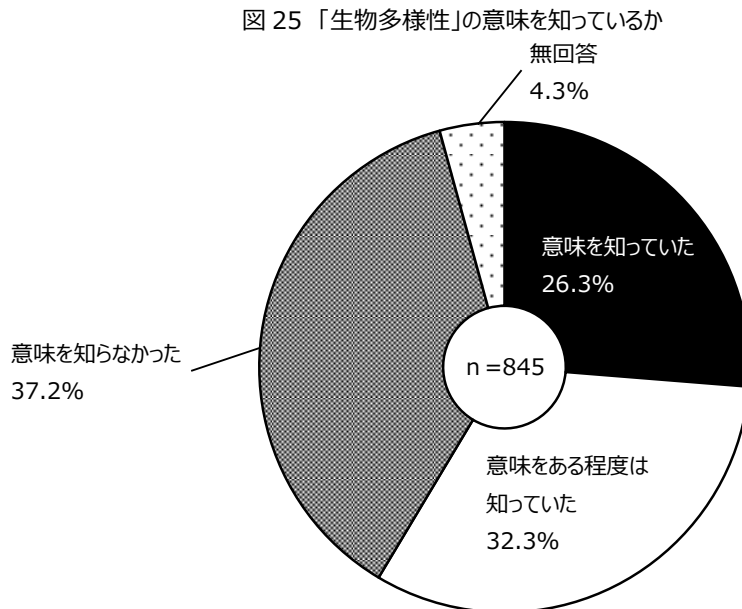
図 24 環境に関する取組



【生物多様性地域戦略】について

■「生物多様性」の意味を知っているか（n=845）

「生物多様性」の意味を知っているかについては、「意味を知らなかった」（37.2%）が3割半ばを占め、最も高い。「意味をある程度は知っていた」（32.3%）、「意味を知っていた」（26.3%）と続いている。



■ 生物多様性保全活動に参加したいか（n=845）

保全活動への参加については、「内容によっては参加したい」（40.4%）が最も高く、続いて、「わからない」（33.6%）、「参加したくない」（16.7%）の順になっている。

また、どのような生物多様性保全活動であれば参加したいかについては、「自然観察会（自然観察ウォーキングツアー等）」（54.8%）、「自然体験活動（水辺の楽校等）」（32.8%）、「生きもの調査（自然環境調査等）」（30.7%）、「講演会の参加」（25.1%）、「希少生物保護活動（レンリ草保全活動等）」（11.6%）、「外来生物駆除（アレチウリ駆除活動等）」（11.6%）の順になっている。

図 26 生物多様性保全活動に参加したいか

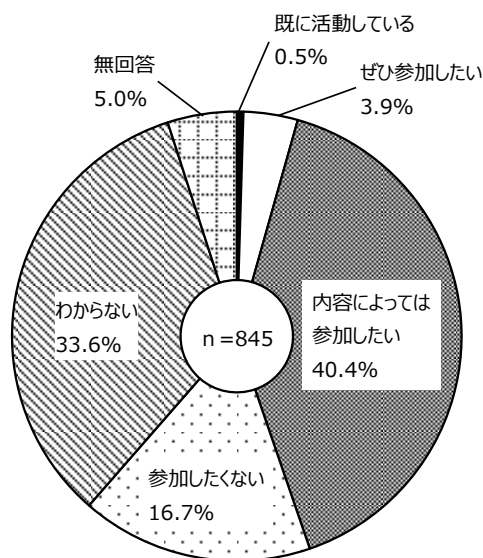
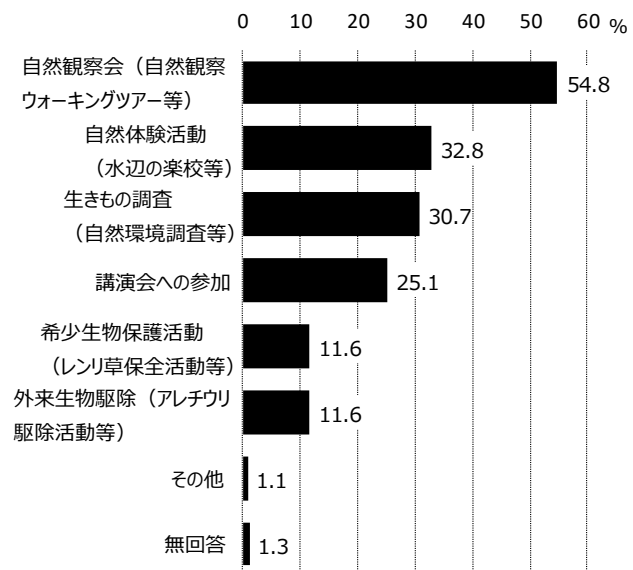


図 27 参加したいと思う保全活動 [複数回答：n=378]

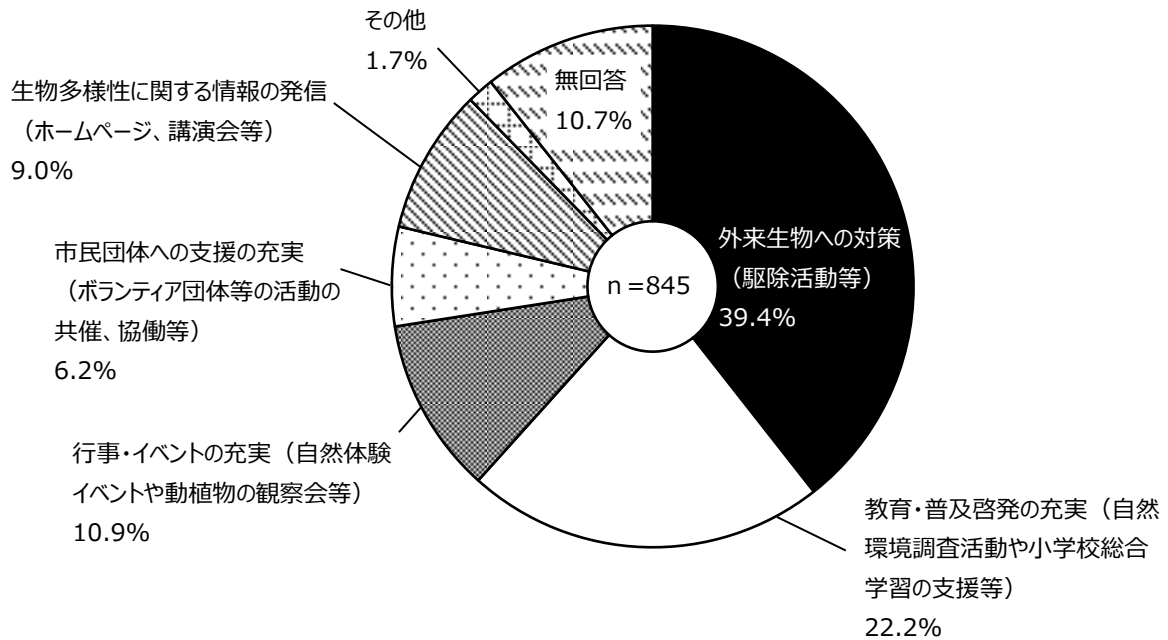


※図 26 で「既に活動している」「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を選択した回答者を対象とする

■ 生物多様性の保全に向けて、行政に期待すること (n=845)

生物多様性の保全に向けて行政に期待することとして、「外来生物への対策」(39.4%) が最も高く、続いて、「教育・普及啓発の充実」(22.2%)、「行事・イベントの充実」(10.9%) となっている。

図 28 生物多様性の保全に向けて、行政に期待すること

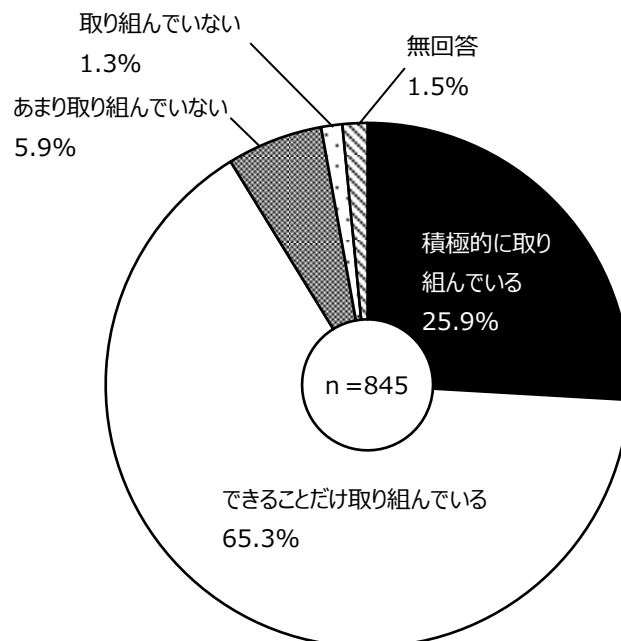


【ごみの減量や食品ロス】について

■ ごみの減量や3Rに取り組んでいるか (n=845)

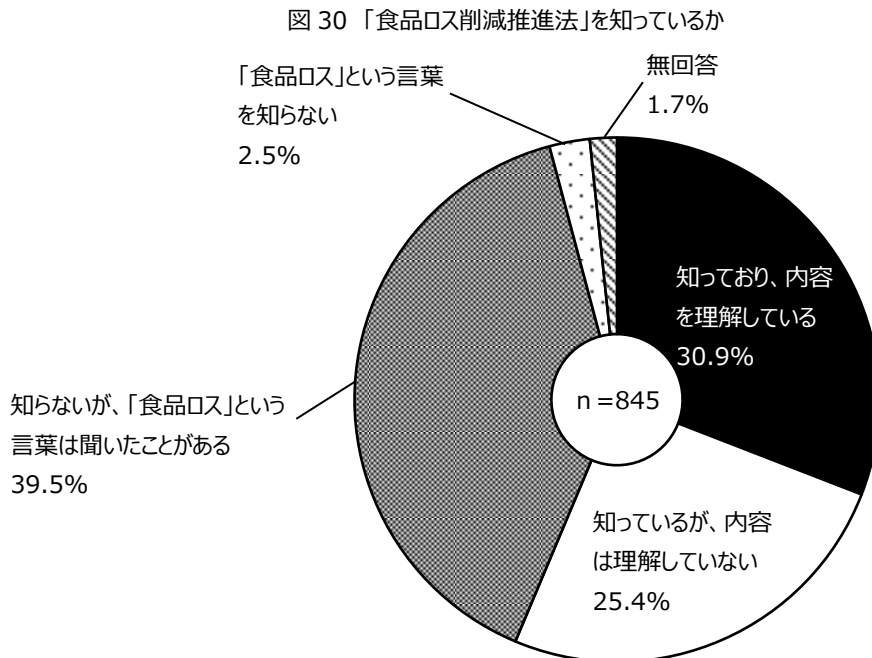
ごみの減量や3Rに取り組んでいるかについては、「できることだけ取り組んでいる」(65.3%) が6割半ばで最も高い。続いて、「積極的に取り組んでいる」(25.9%)、「あまり取り組んでいない」(5.9%)の順になっている。

図 29 ごみの減量や3Rに取り組んでいるか



■「食品ロス削減推進法」を知っているか（n=845）

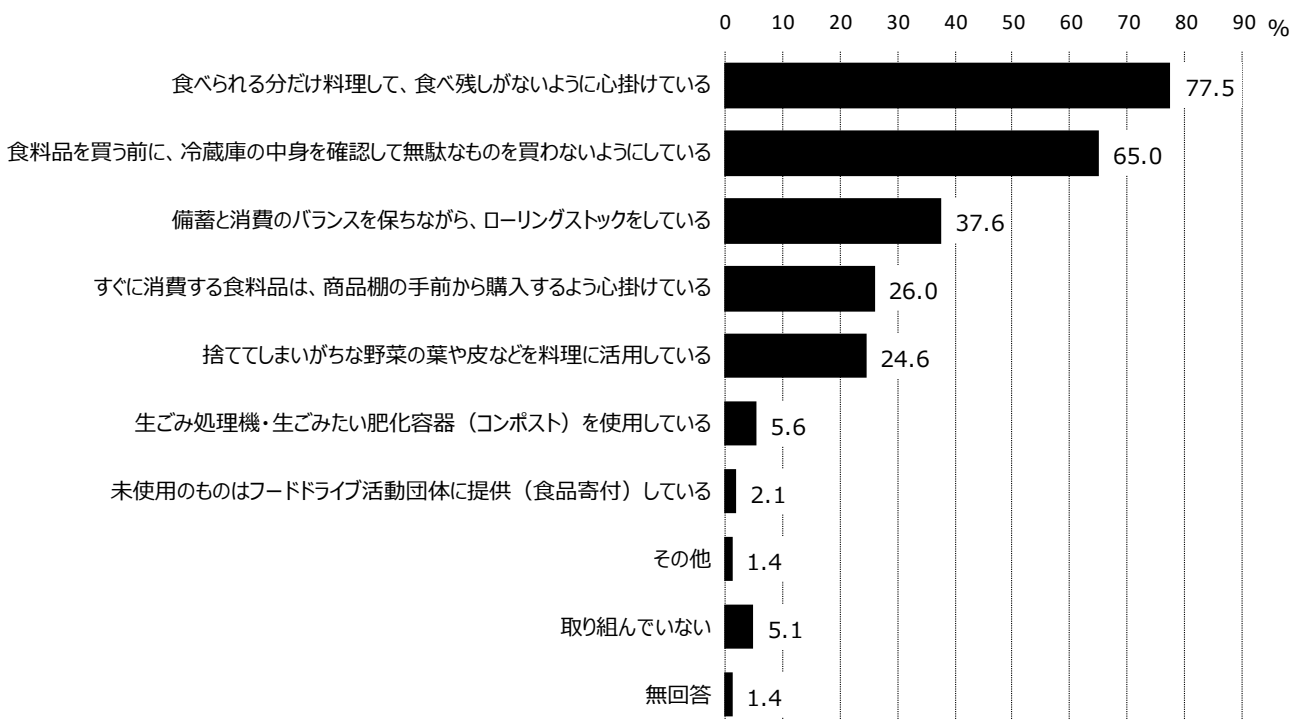
「食品ロス削減推進法」を知っているかについて、「知らないが、「食品ロス」という言葉は聞いたことがある」（39.5%）が最も高く、続いて、「知っており、内容を理解している」（30.9%）、「知っているが、内容は理解していない」（25.4%）の順になっている。



■食品ロス削減のためにやっている取組（n=845：複数回答）

食品ロス削減のためにやっている取組としては、「食べられる分だけ料理して、食べ残しがないように心掛けている」（77.5%）、「食料品を買う前に、冷蔵庫の中身を確認して無駄なものを買わないようにしている」（65.0%）、「備蓄と消費のバランスを保ちながら、ローリングストックをしている」（37.6%）の順になっている。

図 31 食品ロス削減のためにやっている取組

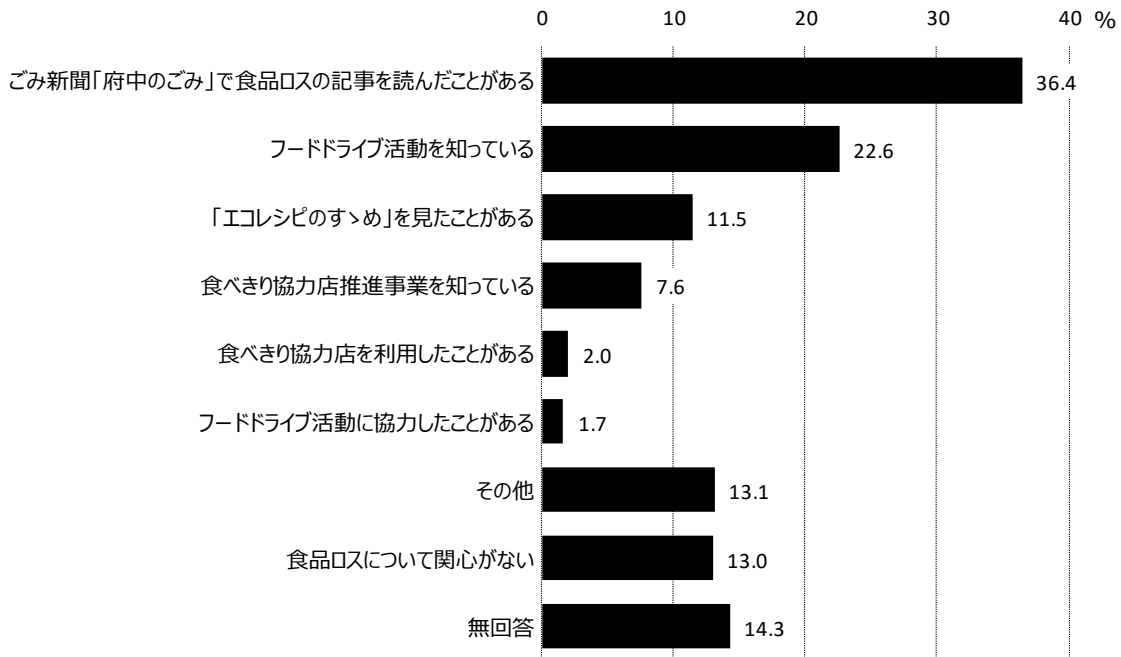


■ 市が実施している食品ロス削減の事業について（n=845：複数回答）

市が実施している食品ロス削減の事業について、「ごみ新聞「府中のごみ」で食品ロスの記事を読んだことがある」（36.4%）、「フードドライブ活動を知っている」（22.6%）、「「エコレシピのすゝめ」を見たことがある」（11.5%）の順になっている。

一方、「食品ロスについて関心がない」（13.0%）は、1割半ばを占めている。

図 32 市が実施している食品ロス削減の事業について

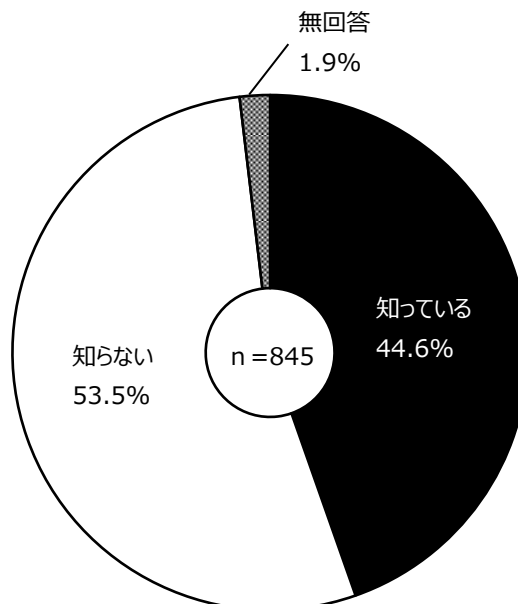


【障害者に対する差別・偏見】について

■ 「障害者差別解消法」の内容について（n=845）

「障害者差別解消法」の内容について、「知らない」（53.5%）が5割半ばを占め、「知っている」（44.6%）は4割半ばを占めている。

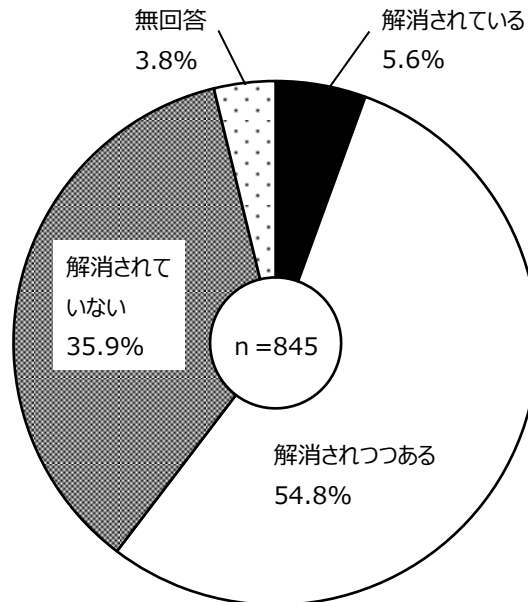
図 33 「障害者差別解消法」の内容について



■ 障害を理由とした差別や偏見について (n=845)

障害を理由とした差別や偏見については、「解消されつつある」(54.8%)が最も高く、5割半ばを占めている。続いて、「解消されていない」(35.9%)、「解消されている」(5.6%)となっている。

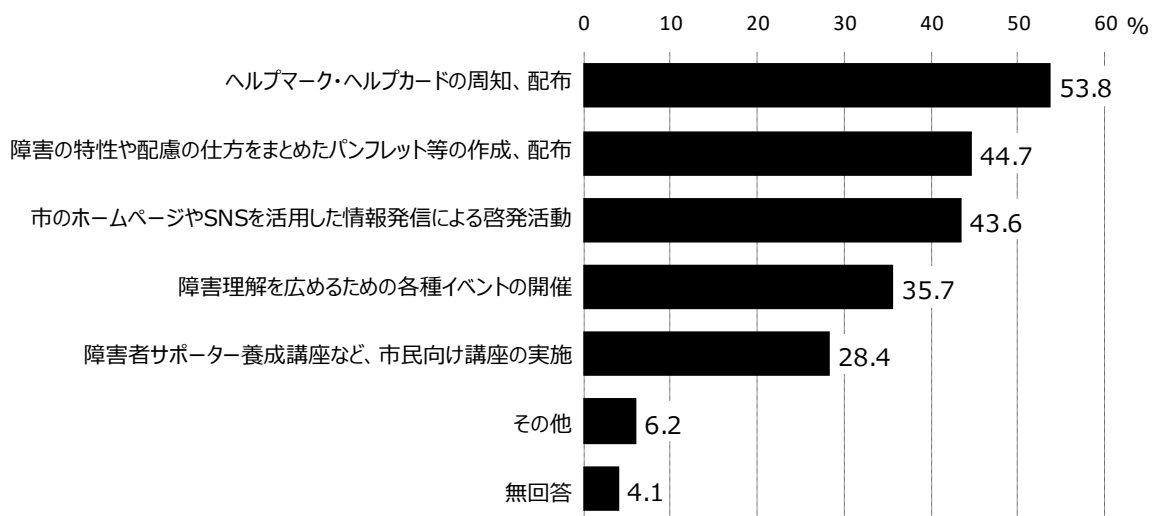
図 34 障害を理由とした差別や偏見について



■ 障害を理由とした差別や偏見を解消するために市が力を入れるべきこと (n=845：複数回答)

障害を理由とした差別や偏見を解消するために市が力を入れるべきこととして、「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知、配布」(53.8%)が最も高く、5割半ばを占めている。続いて、「障害の特性や配慮の仕方をまとめたパンフレット等の作成、配布」(44.7%)、「市のホームページや SNS を活用した情報発信による啓発活動」(43.6%)、「障害理解を広めるための各種イベントの開催」(35.7%)となっている。

図 35 障害を理由とした差別や偏見を解消するために市が力を入れるべきこと

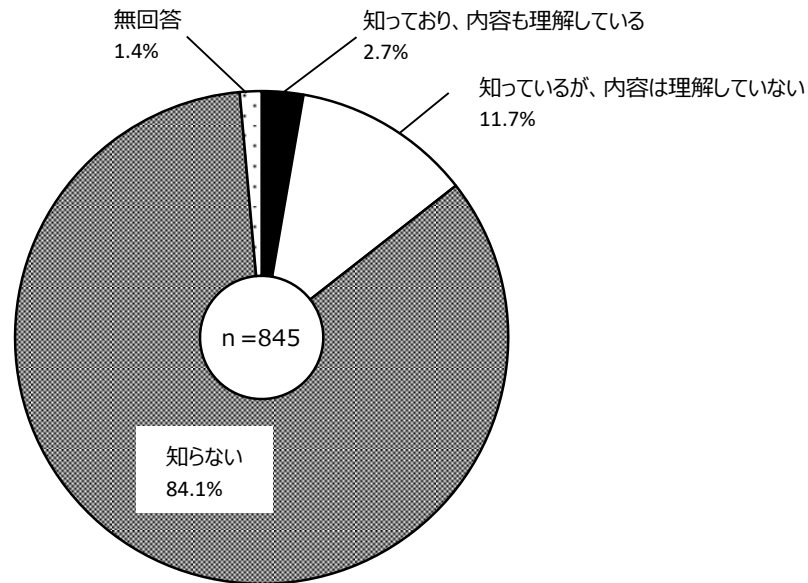


【手話の普及及び障害者の意思疎通の促進】について

■「府中市手話の普及及び障害者の意思疎通の促進に関する条例」を知っているか (n=845)

「府中市手話の普及及び障害者の意思疎通の促進に関する条例」について、「知らない」(84.1%)が最も高く、続いて、「知っているが、内容は理解していない」(11.7%)、「知っており、内容も理解している」(2.7%)の順になっている。

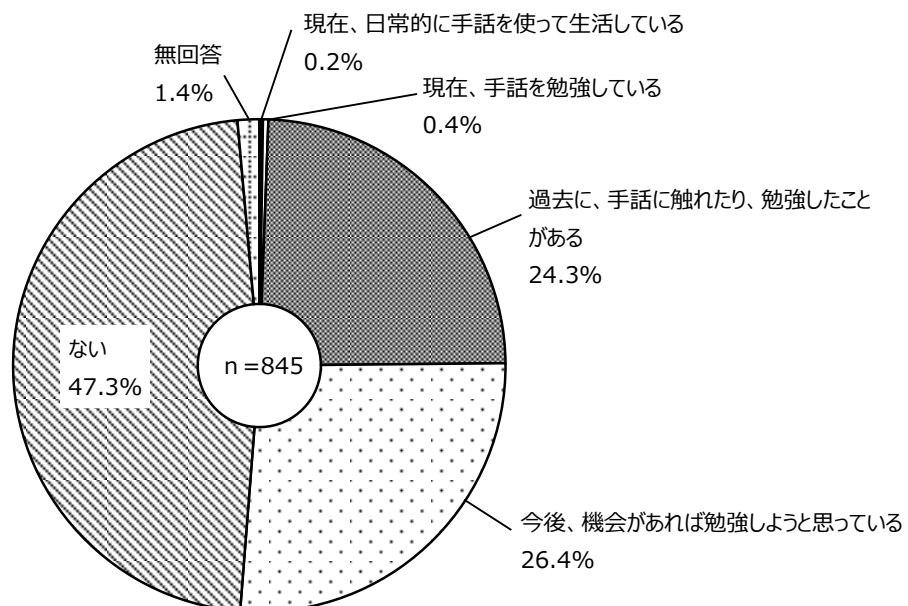
図 36 「府中市手話の普及及び障害者の意思疎通の促進に関する条例」を知っているか



■「手話」に触れたり勉強したことはあるか (n=845)

「手話」に触れたり勉強したことがあるかについては、「ない」(47.3%)が最も高く、4割半ばを占めている。続いて、「今後、機会があれば勉強しようと思っている」(26.4%)、「過去に、手話に触れたり、勉強したことがある」(24.3%)の順になっている。

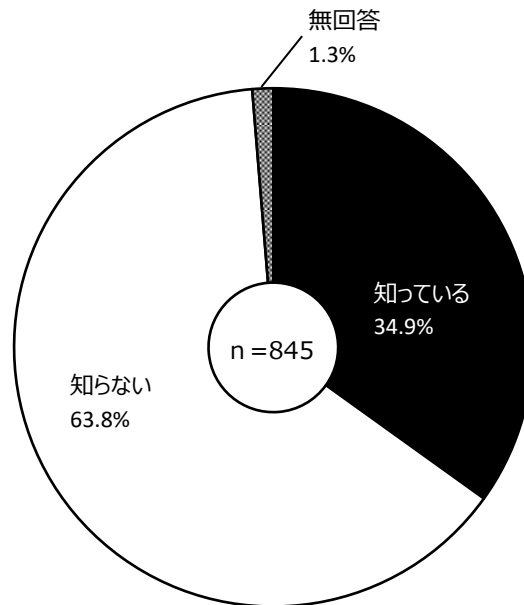
図 37 「手話」に触れたり勉強したことはあるか



■「手話」が「言語」の一つとして規定されていることを知っているか (n=845)

「手話」が「言語」の一つとして規定されていることについて、「知っている」(34.9%)が3割半ばを占め、「知らない」(63.8%)が6割半ばを占める。

図 38 「手話」が「言語」の一つとして規定されていることを知っているか



【健康づくり】について

■ かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局はあるか (n=845)

かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局について、「ある」は、「かかりつけ歯科医」(65.8%)、「かかりつけ医」(63.0%)の順に高く、6割半ばを占めている。続いて、「かかりつけ薬局」(46.6%)となっている。

また、かかりつけ歯科医で予防処置を受けているかについては、「受けている」(72.1%)が7割を超えており、「受けていない」(26.4%)は2割半ばを占めている。

図 39 かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局はあるか

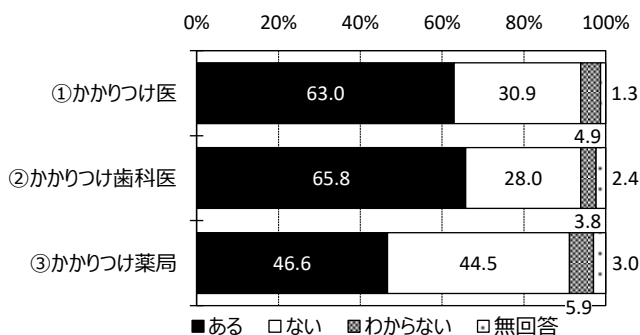
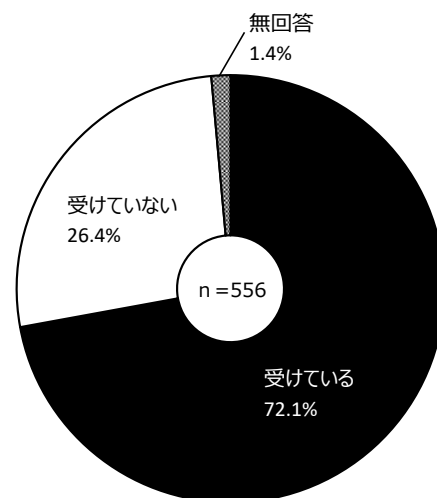


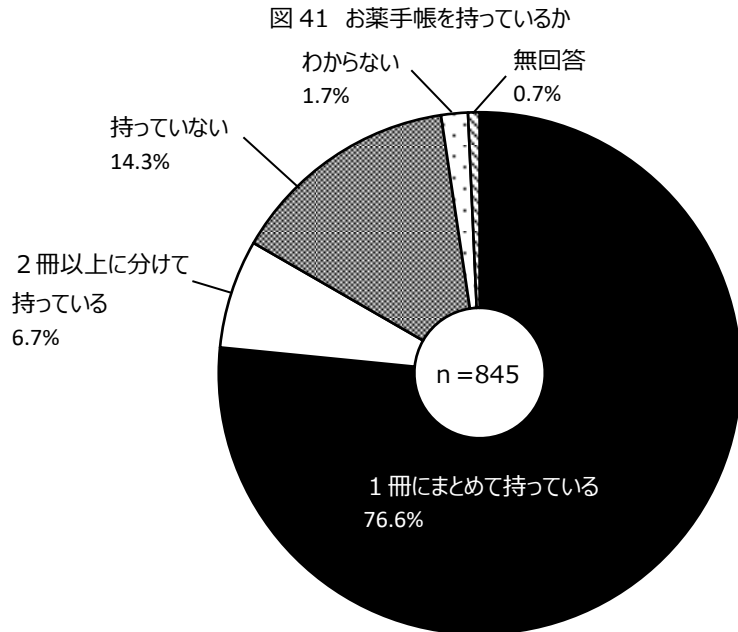
図 40 かかりつけ歯科医で予防処置を受けているか



※図 39②かかりつけ歯科医で「ある」を選択した回答者を対象とする

■ お薬手帳を持っているか (n=845)

お薬手帳を持っているかについては、「1冊にまとめて持っている」(76.6%)が最も多く、7割半ばを占めている。続いて、「持っていない」(14.3%)、「2冊以上に分けて持っている」(6.7%)の順になっている。



■ 健康づくりに関する情報の有効な発信方法 (n=845：複数回答)

健康づくりに関する情報の有効な発信方法として、「広報ふちゅうやリーフレット等の印刷物の配布」(63.7%)が6割を超え、最も高くなっている。続いて、「インターネット(市のホームページやメール配信サービス等)による発信」(50.5%)、「生活に身近な場所でのポスターやお知らせの掲示や配架」(42.2%)、自治会の回覧への掲載(23.3%)となっている。

また、ポスターやお知らせの掲示や配架に適した「生活に身近な場所」については、「駅やバスの中」(82.6%)が8割半ばを占める。続いて、「スーパー・ドラッグストア」(76.5%)、「銀行・郵便局」(47.9%)、「コンビニエンスストア」(47.6%)の順で高くなっている。

図 42 健康づくりに関する情報の有効な発信方法

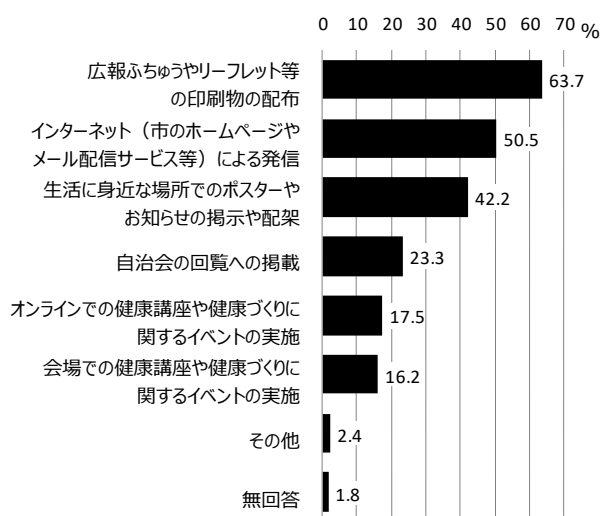
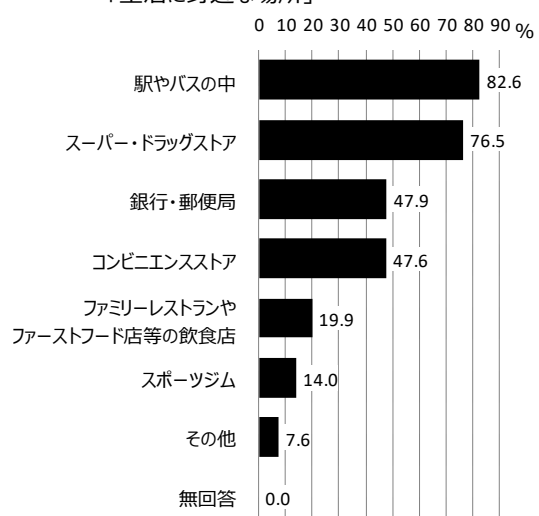


図 43 ポスターやお知らせの掲示や配架に適した「生活に身近な場所」

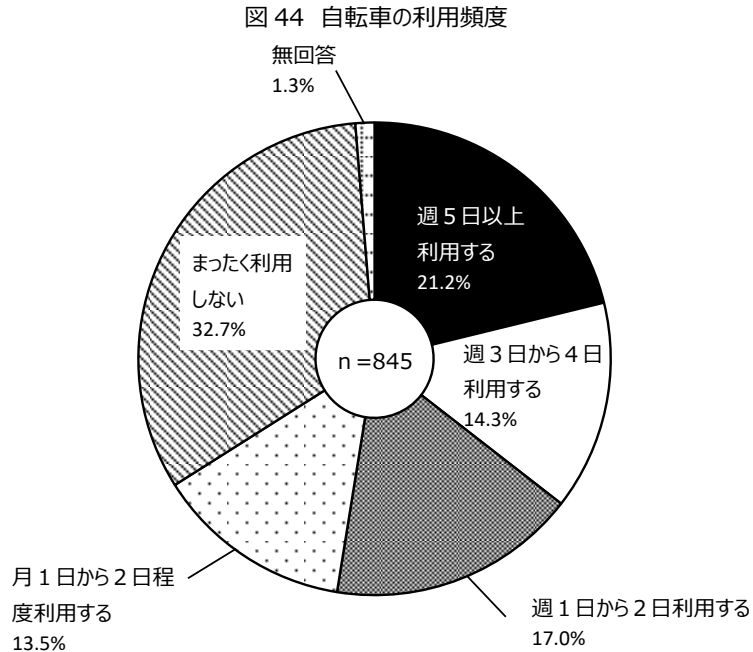


※図 42 で「生活に身近な場所でのポスターやお知らせの掲示や配架」を選択した回答者を対象とする

【自転車利用に関すること】について

■ 自転車の利用頻度 (n=845)

自転車の利用頻度については、「まったく利用しない」(32.7%) が最も高い。続いて、「週5日以上利用する」(21.2%)、「週1日から2日利用する」(17.0%)、「週3日から4日利用する」(14.3%) の順になっており、『週1日以上利用する』割合は、5割半ばを占める(52.5%)。



自転車用ヘルメットの着用については、「購入していないし、着用する予定もない」(90.9%) が最も高く、9割を超えている。続いて、「購入したが着用していない」(3.2%)、「今は着用していないが、今後購入し、着用するつもりである」(2.9%)、「日常的に着用している」(2.0%) の順になっている。

また、過去1年間の自転車乗用中の事故については、「事故にあったことはない」(92.5%) が最も高い。「事故にあったことがあり、警察に届出をした」と「事故にあったことがあるが、警察には届出をしていない」を合わせた『事故にあった』割合は5.8%であり、1割未満となっている。

図 45 自転車用ヘルメットの着用について

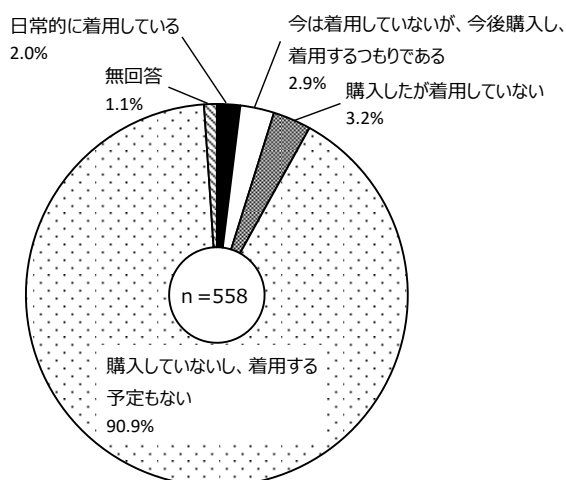
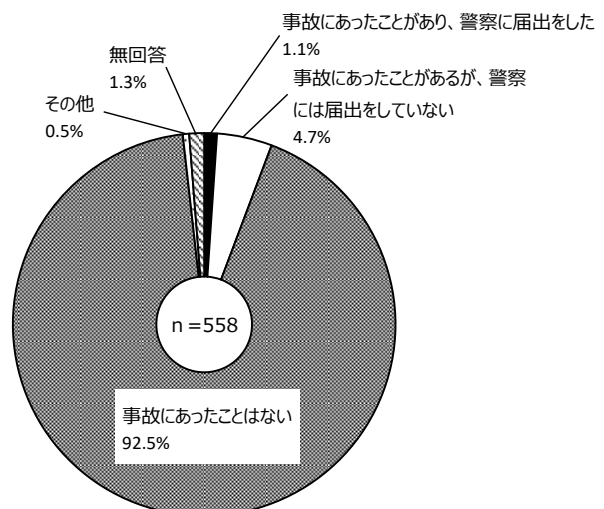


図 46 過去1年間の自転車乗用中の事故



※図 44 で「週5日以上利用する」「週3日から4日利用する」「週1日から2日利用する」「月1日から2日程度利用する」を選択した回答者を対象とする

「自転車ナビマーク」「自転車ナビライン」については、「ナビマーク等があれば車道を走る」(46.4%)が最も高く、続いて、「ナビマーク等があってもなくても歩道を走る」(26.3%)、「ナビマーク等があってもなくても車道を走る」(9.5%)の順になっている。

自転車損害保険の加入状況として、「自転車損害保険に加入している」(60.9%)が最も高く、続いて、「加入していない」(16.8%)、「加入しているかもしれないがわからない」(13.3%)、「今後加入する予定である」(7.7%)の順になっている

図 47 ナビマーク等に対する行動について

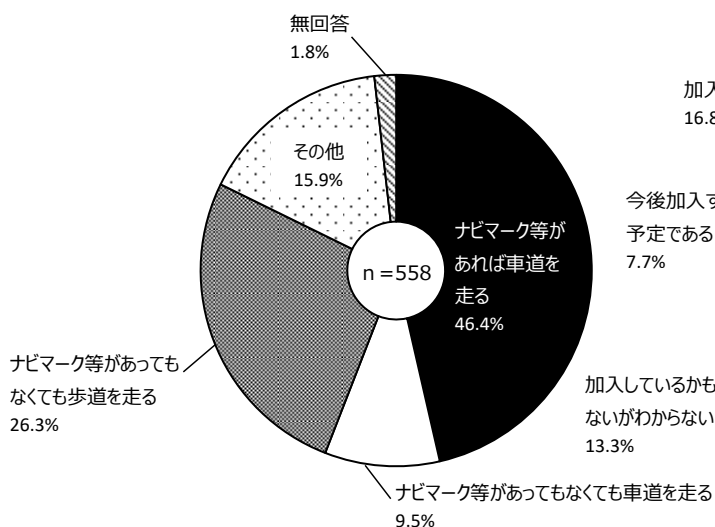
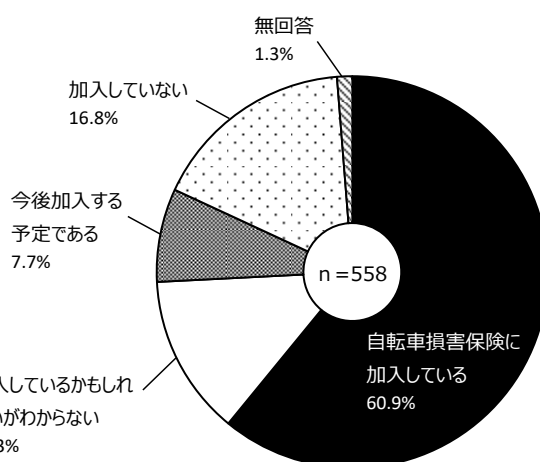


図 48 自転車損害保険の加入状況



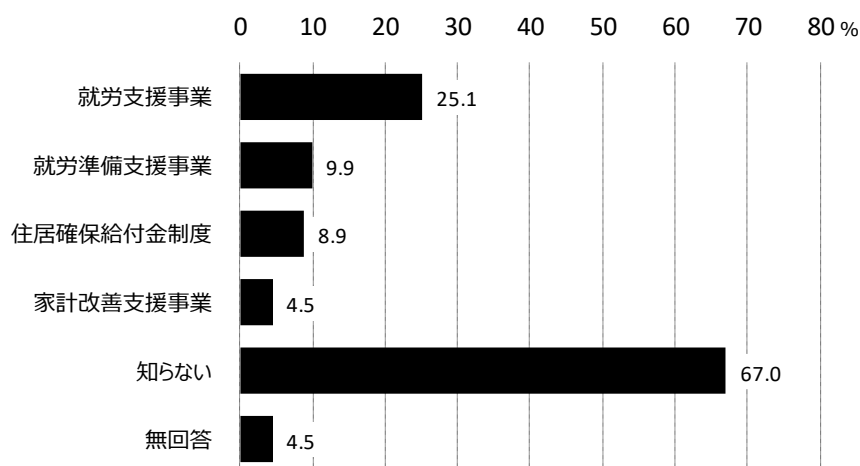
※図 44 で「週 5 日以上利用する」「週 3 日から 4 日利用する」「週 1 日から 2 日利用する」「月 1 日から 2 日程度利用する」を選択した回答者を対象とする

【暮らしとすごとの相談コーナー】について

■「暮らしとすごとの相談コーナー」の相談支援で知っているもの (n=845 : 複数回答)

「暮らしとすごとの相談コーナー」の相談支援について、「知らない」(67.0%)が最も高く、続いて、「就労支援事業」(25.1%)、「就労準備支援事業」(9.9%)、「住居確保給付金制度」(8.9%)、「家計改善支援事業」(4.5%)の順になっている。

図 49 「暮らしとすごとの相談コーナー」の相談支援で知っているもの

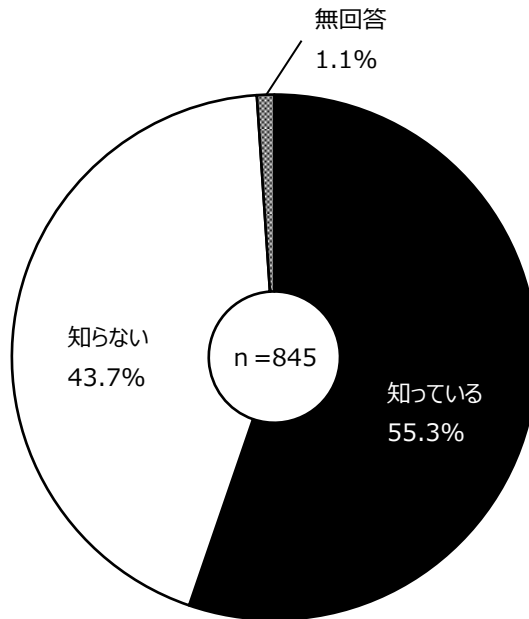


【国司館と家康御殿史跡広場】について

■ 国司館と家康御殿史跡広場を知っているか (n=845)

国司館と家康御殿史跡広場を知っているかについては、「知っている」(55.3%)が5割半ばを占め、「知らない」(43.7%)は4割半ばとなっている。

図 50 国司館と家康御殿史跡広場を知っているか



■ 国司館と家康御殿史跡広場に来園したことがあるか (n=845)

国司館と家康御殿史跡広場に来園したことがあるかについては、「来園したことはない」(82.8%)が最も高い。「複数回来園したことがある」と「1回だけ来園したことがある」を合わせた『来園したことがある』割合は1割半ばとなっている(15.8%)。

来園した目的としては、「復元した柱や模型を見学するため」(63.2%)が最も高く、続いて「芝生広場を利用するため」(24.1%)、「VRスコープ(武蔵国府スコープ)を見るため」(18.8%)、「スタンプラリーに参加するため」(9.8%)となっている。

図 51 国司館と家康御殿史跡広場に来園したことがあるか

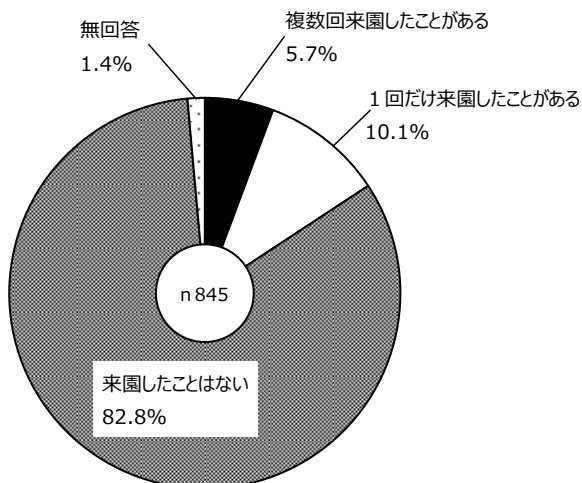
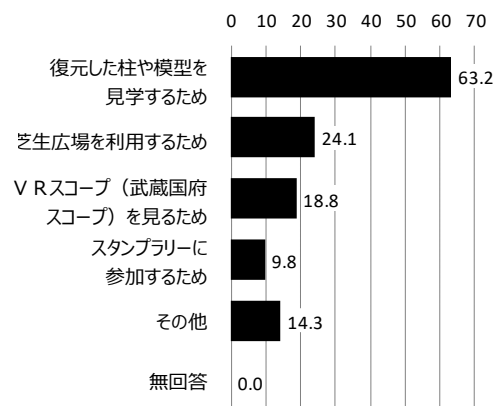


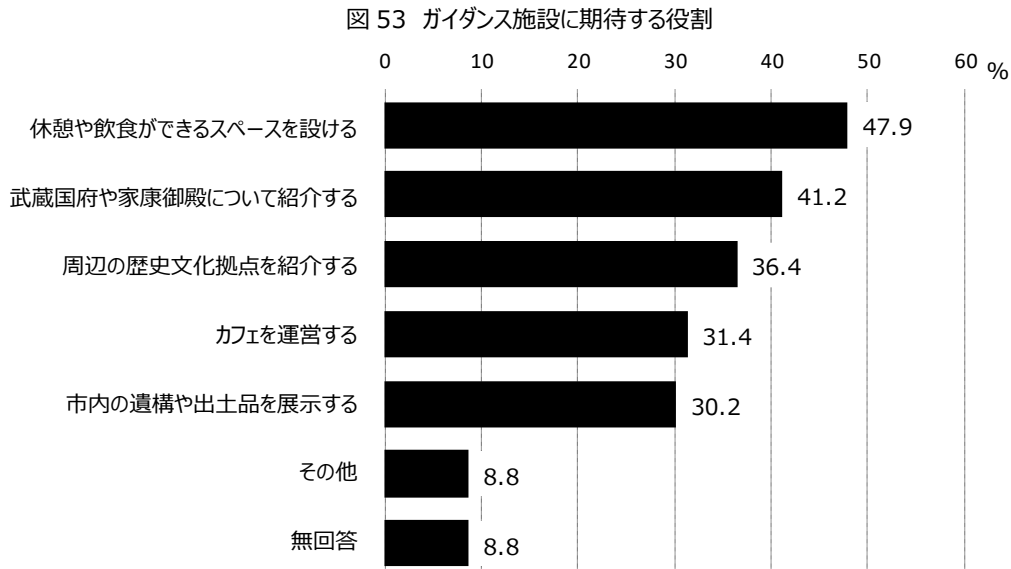
図 52 来園した目的



※図 51 で「複数回来園したことがある」「1回だけ来園したことがある」を選択した回答者を対象とする

■ ガイダンス施設に期待する役割 (n=845 : 複数回答)

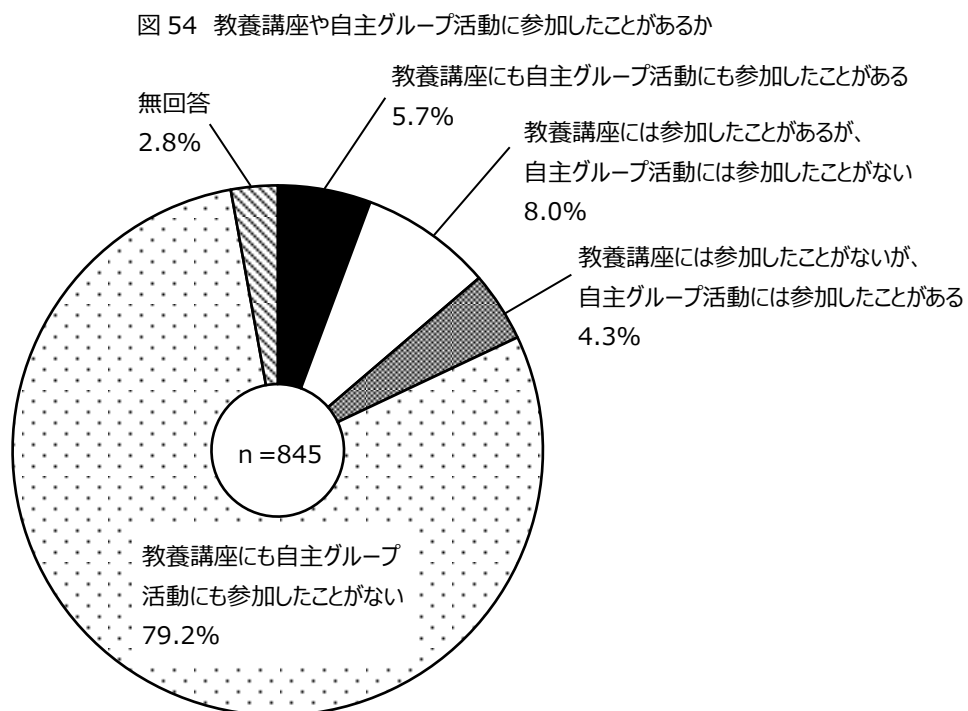
ガイダンス施設に期待する役割として、「休憩や飲食ができるスペースを設ける」(47.9%) が最も高く、続いて、「武蔵国府や家康御殿について紹介する」(41.2%)、「周辺の歴史文化拠点を紹介する」(36.4%)、「カフェを運営する」(31.4%)、「市内の遺構や出土品を展示する」(30.2%)の順になっている。



【生涯学習への取組】について

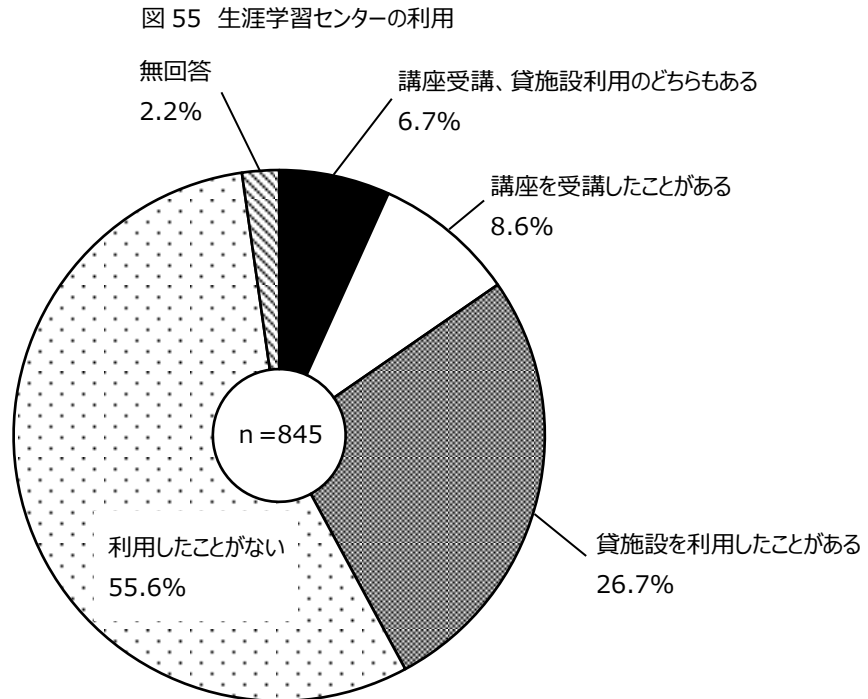
■ 教養講座や自主グループ活動に参加したことがあるか (n=845)

生涯学習活動として、教養講座や自主グループ活動に参加したことがあるかについては、「教養講座にも自主グループ活動にも参加したことがない」(79.2%) が最も高く、8割近くを占める。続いて、「教養講座には参加したことがあるが、自主グループ活動には参加したことがない」(8.0%)、「教養講座にも自主グループ活動にも参加したことがある」(5.7%)の順になっている。



■ 生涯学習センターの利用 (n=845)

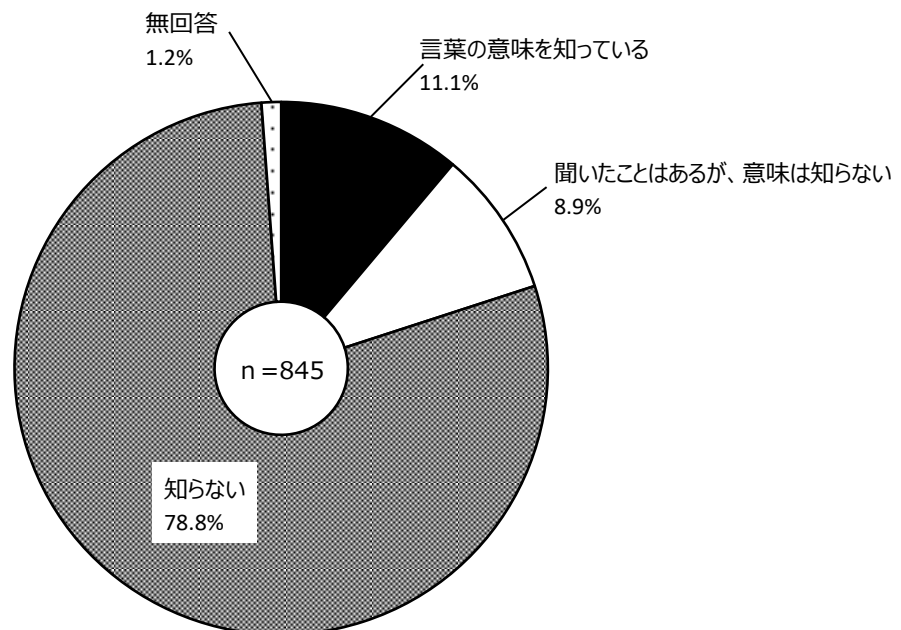
生涯学習センターの利用について、「利用したことがない」(55.6%) が最も高く、続いて、「貸施設を利用したことがある」(26.7%)、「講座を受講したことがある」(8.6%)、「講座受講、貸施設利用のどちらもある」(6.7%)の順になっている。



■ 「学び返し」という言葉を知っているか (n=845)

「学び返し」という言葉について、「知らない」(78.8%) が最も高く、続いて、「言葉の意味を知っている」(11.1%)、「聞いたことはあるが、意味は知らない」(8.9%)の順になっている。

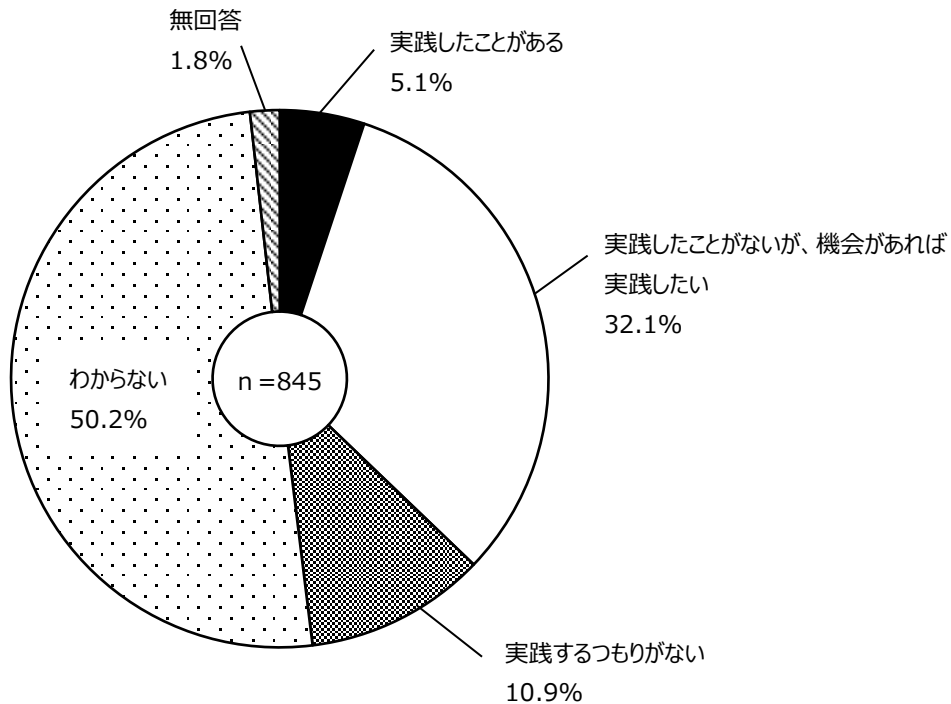
図 56 「学び返し」という言葉を知っているか



■「学び返し」を実践したことがあるか (n=845)

「学び返し」を実践したことがあるかについて、「わからない」(50.2%)が最も高く、続いて「実践したことがないが、機会があれば実践したい」(32.1%)、「実践するつもりがない」(10.9%)、「実践したことがある」(5.1%)の順になっている。

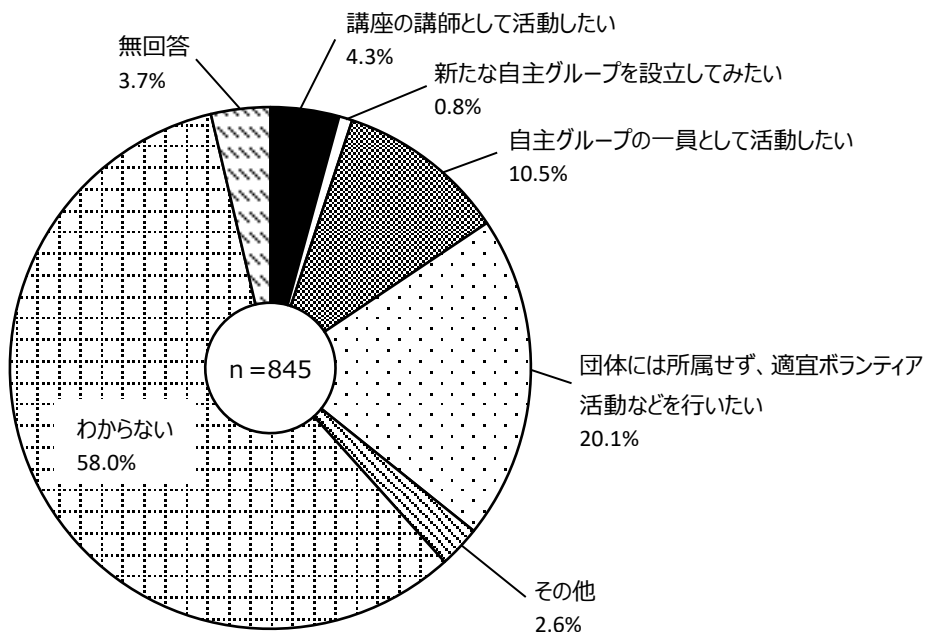
図 57 「学び返し」を実践したことがあるか



■「学び返し」をどのような場面で実践したいか (n=845)

「学び返し」をどのような場面で実践したいかについて、「わからない」(58.0%)が最も高く、続いて、「団体には所属せず、適宜ボランティア活動などを行いたい」(20.1%)、「自主グループの一員として活動したい」(10.5%)の順になっている。

図 58 「学び返し」をどのような場面で実践したいか

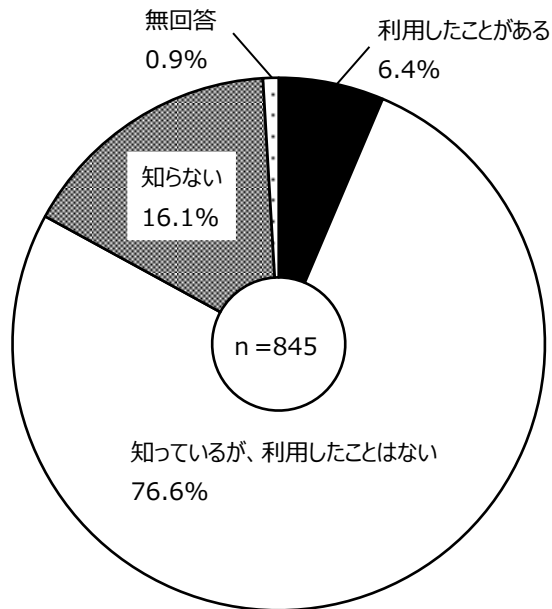


【消費者被害・トラブルの経験】について

■「消費生活センター」を知っているか (n=845)

「消費生活センター」を知っているかについては、「知っているが、利用したことはない」(76.6%)が7割半ばで最も高い。続いて、「知らない」(16.1%)、「利用したことがある」(6.4%)の順になっている。

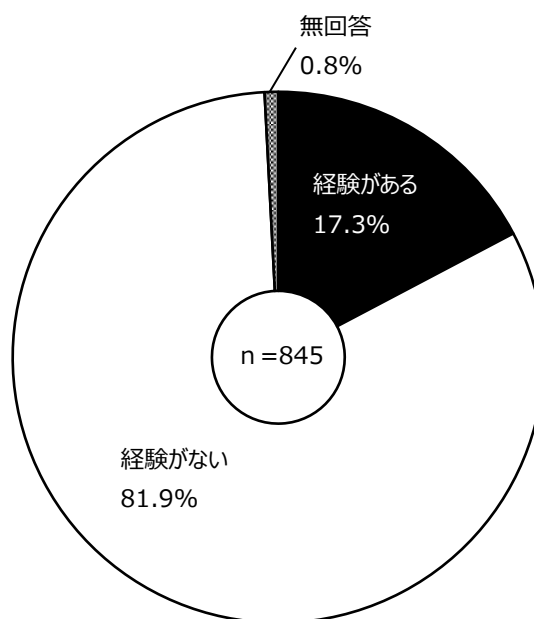
図 59 「消費生活センター」を知っているか



■消費者被害・トラブルの経験 (n=845)

消費者被害・トラブルの経験について、「経験がない」(81.9%)が8割を超えており、「経験がある」(17.3%)は1割半ばとなっている。

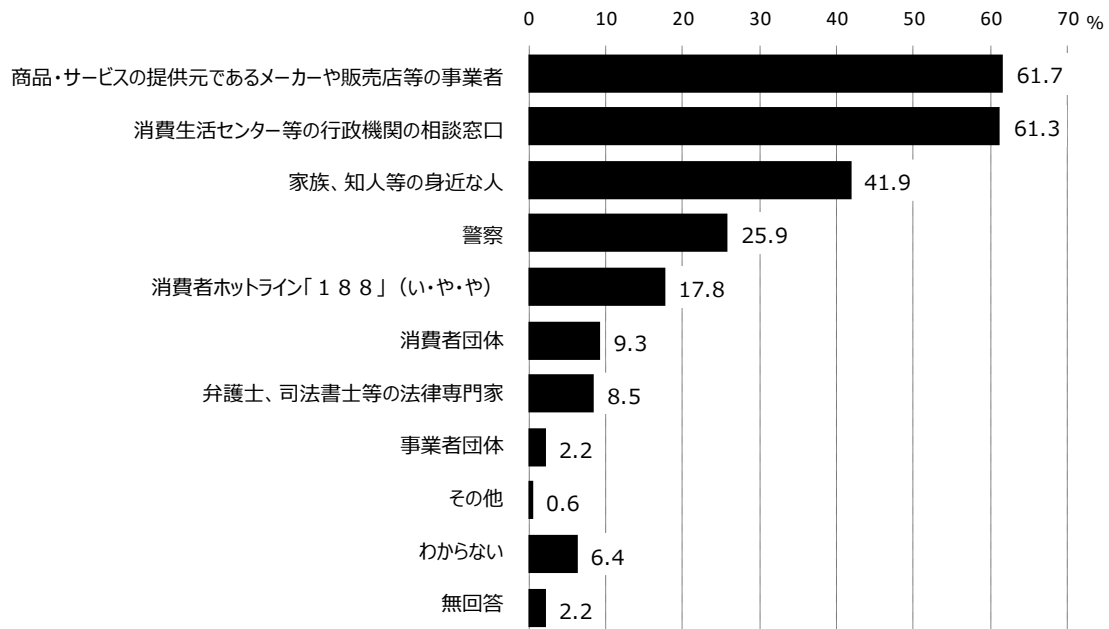
図 60 消費者被害・トラブルの経験



■ 消費者被害・トラブルにあった場合の相談・申出について（n=845：複数回答）

消費者被害・トラブルにあった場合の相談・申出について、「商品・サービスの提供元であるメーカーや販売店等の事業者」（61.7%）が最も高く、続いて、「消費生活センター等の行政機関の相談窓口」（61.3%）、「家族、知人等の身近な人」（41.9%）となっている。

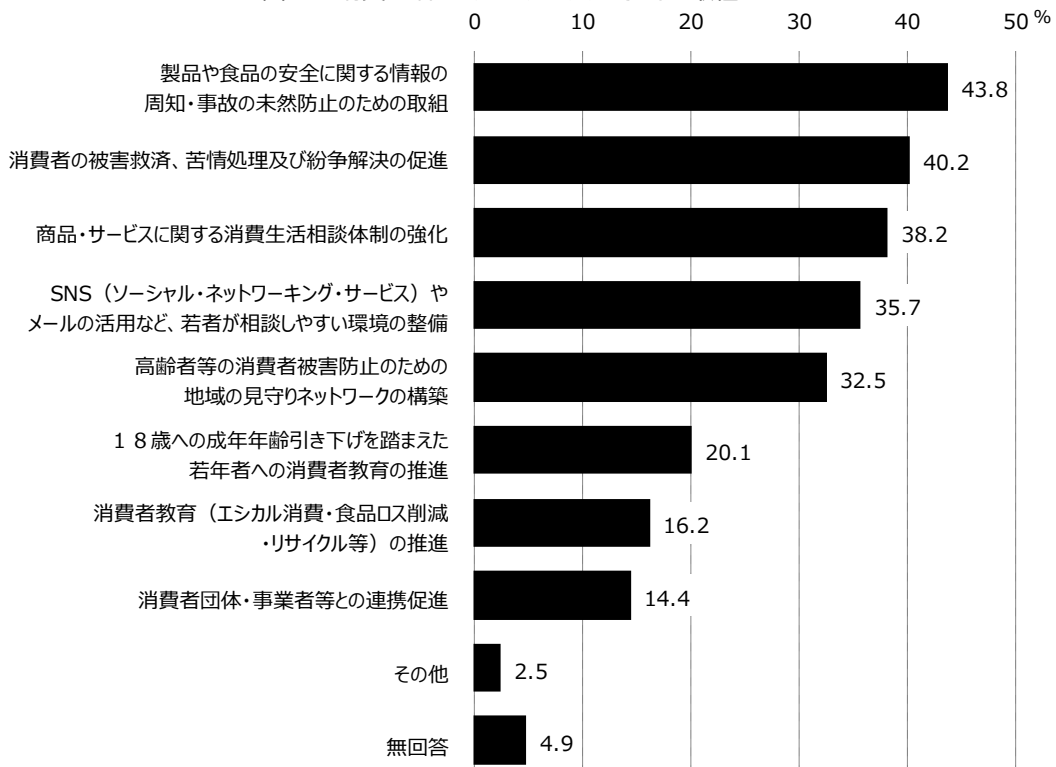
図 61 消費者被害・トラブルにあった場合の相談・申出について



■ 消費生活センターに力を入れてほしい取組（n=845：複数回答）

消費生活センターに力を入れてほしい取組について、「製品や食品の安全に関する情報の周知・事故の未然防止のための取組」（43.8%）が最も高く、続いて、「消費者の被害救済、苦情処理及び紛争解決の促進」（40.2%）、「商品・サービスに関する消費生活相談体制の強化」（38.2%）の順になっている。

図 62 消費生活センターに力を入れてほしい取組



第 53 回府中市市政世論調査（概要版）

令和 3 年 9 月

発行：府中市政策総務部広報課

東京都府中市宮西町二丁目 24 番地

Tel 042-366-1711

実施：株式会社 T D S

東京都府中市晴見町二丁目 24 番地の 1

Tel 042-352-3330